

2025年度

修士論文特別研究等の手引

博士前期課程

埼玉県立大学大学院
保健医療福祉学研究科

目次

1. 基本理念	1
2. 教育研究上の目的	1
3. 教育目標	1
4. 3つの方針（ポリシー）	2
5. 学修の手引き	5
6. 教育課程	8
7. 各専修の履修例	15
8. 特別研究の手引	40
（1）修士論文作成・指導の流れ	41
（2）修士論文作成・指導スケジュール	43
（3）修士論文の研究指導教員及び研究指導補助教員に関する要領	45
（4）修士論文審査に関する要領	50
（5）修士論文・要旨の作成の手引	62
9. 博士前期課程担当教員一覧	65
10. 2025年度大学院博士前期・後期課程 学年暦	79
11. 2025年度大学院博士前期課程 時間割	81

1. 基本理念

本学は、陶冶、進取、創発を基本理念として、保健医療福祉に関する教育・研究の中核となって地域社会に貢献します。

【陶冶】

誠実で温かい心と主体性を持ち、多様な価値観を尊重する人間性を磨き高める

【進取】

広く先達に学びつつ、未来を志向する教育・研究に取り組む

【創発】

多様な連携を通じて、予測を遥かに超える新たな価値を創造する

2. 教育研究上の目的

博士前期課程は、自らの専門分野に関する諸問題に対し、多職種の知識と技術を連関させる学際的な思考を基に実効性・有効性のある解決方法を立案できる能力を有し、職業人、教育者又は研究者として、持続的に人々の健康と生活を支えることができる人材を育成することを目的とする。

3. 教育目標

(1) 博士前期課程全体

本学大学院博士前期課程では、複雑多様化する社会において、生活する人々の健康ニーズに高い倫理観をもつて的確に対応するとともに、国際的な視野と地域への関心を持ちながら、保健医療福祉に関する専門的知識を修得し、保健・医療・福祉等の多職種と連携してヘルスプロモーションを発展させることができる人材を育成することを教育目標とします。

(2) 各専修

① 看護学専修

看護学専修では、現場での実践経験を科学的・体系的に整理し、質の高い看護実践を提供し、課題解決に資する研究の基礎的能力をもった職業人・教育者・研究者の育成を目指します。

② リハビリテーション学専修

リハビリテーション学専修では、個人や集団を対象に、身体的、精神的、社会的側面から包括的に把握し、複雑多様化する健康ニーズに対する諸課題を解決するための知識、実践力、マネジメント力を持った職業人・教育者・研究者の育成を目指します。

③ 健康福祉科学専修

健康福祉科学専修では、健康増進、疾病予防、健康・生活問題への対処から、社会や環境全体に至る幅広い視点を持つとともに、少子高齢化社会における専門的な学識を有する職業人・教育者・研究者の育成を目指します。

4. 3つの方針（ポリシー）

（1）博士前期課程全体

【学位の授与方針】（ディプロマ・ポリシー）

本学大学院博士前期課程に所定の年限在学し、所定の単位を修得し、修士論文の審査に合格した者に修士の学位を授与します。修了にあたっては、以下の点を到達目標とします。

1. 職業人、教育者又は研究者として、保健医療福祉分野の専門的知識と技術を修得している
2. 学際的な視野を持ち、保健医療福祉に関する連携を推進する能力を身につけている
3. 当該分野の学術的な情報の理解と活用ができ、それらを発信する能力を身につけている

【教育課程の編成・実施方針】（カリキュラム・ポリシー）

本学大学院博士前期課程では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、以下の考え方のもとにカリキュラムを構成します。

1. 各分野の専門的知識と技術を高め、学術的な情報の理解と活用力を涵養するための専門科目を各専修に配置します。
2. 保健医療福祉における基盤となる知識、学際的な視野、連携を推進する能力を身につけるため、すべての専修が履修可能な共通科目を配置します。また、他専修の専門科目も選択可能とし、他専修の最新の知識・動向について理解を深めます。
3. 専門科目及び共通科目を踏まえ、課題に適した研究方法を探究し、その成果を発信する力を養うため、特別研究を配置します。
4. 学修成果は、各科目については学修到達度を反映した評価基準、学位論文については修士論文審査基準に基づき評価します。

【入学受入れの方針】（アドミッション・ポリシー）

本学大学院博士前期課程では、複雑多様化する社会において、生活する人々の健康ニーズに高い倫理観を持つ的確に対応するとともに、国際的な視野と地域への関心を持ちながら、保健医療福祉に関する専門的知識を修得し、保健・医療・福祉等の多職種と連携してヘルスプロモーションを発展させることを目指す人を受け入れます。

入学者の選抜では、以下の資質・能力を確認します。

- ・保健医療福祉分野についての倫理観と問題意識
- ・保健医療福祉分野について学修するための基礎学力、思考力・判断力・表現力
- ・多様な人々と連携して問題解決にあたる能力と意欲
- ・継続的な学修と研究への意欲

なお、本大学院は多様な人々の持続的な学修と研究を可能とするためのカリキュラムを整え、社会人を受け入れます。

(2) 各専修

① 看護学専修

【学位の授与方針】（ディプロマ・ポリシー）

看護学専修で授与する学位名は、修士（看護学）です。博士前期課程全体のディプロマ・ポリシーを踏まえながら、以下の点について学修成果に基づき総合的に判断します。

1. 現場での実践を理論的に説明でき、専門的知識と技術を看護実践に活用できること
2. 臨床・教育・研究現場においてリーダーシップを発揮し、主体的に専門職連携（IPW:Interprofessional Work）の実践活動ができること
3. 倫理原則に基づく研究の過程を理解し、自らの研究成果を発信することができること

【教育課程の編成・実施方針】（カリキュラム・ポリシー）

一般コースでは、看護学におけるこれまで受けた教育や実践の場で培った専門的知識の深化を目指し、必要な科目を配置します。

1. 看護学を多面的に捉え学ぶための「看護基盤科学」と、看護実践を深く探究する「看護実践科学」を組み合わせるよう配置します。
2. 研究能力の涵養と修士論文の作成のために「特別研究」を配置します。

専門看護師（CNS）コースでは、複雑で解決困難な看護問題を持つ個人、家族及び集団に対して水準の高い看護ケアを提供できる能力を養うため、専門看護師教育課程を開講します。

看護専門看護師（CNS）の6つの役割を修得できるように、「共通科目」、「看護基盤科学」、「看護実践科学」、「看護学実習・特別研究」にそれぞれ必要な科目を配置します。

② リハビリテーション学専修

【学位の授与方針】（ディプロマ・ポリシー）

リハビリテーション学専修で授与する学位名は、修士（リハビリテーション学）です。博士前期課程全体のディプロマ・ポリシーを踏まえながら、以下の点について学修成果に基づき総合的に判断します。

1. リハビリテーションにおける理学療法または作業療法の分野において、対象者の心身機能や能力を高めるための専門的な知識と技術を活用できること
2. 臨床・教育・研究現場でリーダーシップを発揮するとともに、多職種と連携し、組織や機関において経営や管理に貢献できること
3. 新たなリハビリテーション治療法や評価法、医療器具・機器を開発、発信するなどの意欲を持ち、実践できること

【教育課程の編成・実施方針】（カリキュラム・ポリシー）

リハビリテーション分野におけるこれまで受けた教育や実践の場で培った理学療法学または作業療法学の専門的知識の深化を目指し、必要な科目を配置します。

1. リハビリテーションにおける基礎科学並びに応用科学の修得を目指すために、「リハビリテーション基礎科学」と「リハビリテーション応用科学」を組み合わせるよう配置します。
2. 研究能力の涵養と修士論文の作成のために「特別研究」を配置します。

③ 健康福祉科学専修

【学位の授与方針】（ディプロマ・ポリシー）

健康福祉科学専修で授与する学位名は、修士（健康福祉科学）です。博士前期課程全体のディプロマ・ポリシーを踏まえながら、以下の点について学修成果に基づき総合的に判断します。

1. 健康科学と社会福祉学の分野にまたがる包括的な課題解決のために専門的な知識と技術を身につけて高度な実践を展開できること
2. 実践・教育・研究現場において、リーダーシップを発揮するとともに、多職種と連携し、組織や機関において経営や管理に貢献できること
3. 新たな手法・援助方法や資源の開発・普及に取り組めること

【教育課程の編成・実施方針】（カリキュラム・ポリシー）

健康科学や社会福祉学におけるこれまで受けた教育や実践の場で培った専門的知識の深化を目指し、必要な科目を配置します。

1. 健康科学や社会福祉学における基礎科学並びに応用科学の修得を目指すために、「健康福祉基礎科学」「健康情報実践学」「社会福祉実践学」「検査技術実践学」を組み合わせで学べるよう配置します。
2. 研究能力の涵養と修士論文の作成のために「特別研究」を配置します。

5. 学修の手引き（博士前期課程・博士後期課程 共通）

【履修等】

（１）学年・学期

- ・ 学年 ４月１日～翌年３月３１日
- ・ 学期 学年は次のとおり２学期に分かれます。
 前期 ４月１日 ～ ９月３０日
 後期 １０月１日 ～ 翌年３月３１日

（２）授業時間

① 月～金曜日

時 限	時 間	備 考
１時限	９：００～１０：３０	演習等では、時間帯が異なる場合があります。
２時限	１０：４０～１２：１０	
３時限	１３：００～１４：３０	
４時限	１４：４０～１６：１０	
５時限	１６：２０～１７：５０	
６時限	１８：００～１９：３０	
７時限	１９：４０～２１：１０	

② 土曜日

時 限	時 間	備 考
１時限	９：００～１０：３０	演習等では、時間帯が異なる場合があります。
２時限	１０：４０～１２：１０	
３時限	１３：００～１４：３０	
４時限	１４：４０～１６：１０	
５時限	１６：２０～１７：５０	

（３）履修

授業科目を受講するためには、その科目を履修登録することが必要です。

履修登録は、前期・後期科目を合わせて年度初めに一括して行います。また、後期の初めに、後期科目の登録内容を修正することができます。

① 履修科目

科目には必修科目、選択科目があります。各課程、専修の教育課程をよく確認し、修了に必要な単位を充足するよう十分注意してください。また、履修登録した科目を途中で放棄した場合、その科目の評価は「D」（不合格）となります。選択科目の申請は、慎重に行ってください。

② 履修登録

履修登録とは、履修の意思を申請するものです。指定された期間内に、CampusAvenue（パソコンやスマートフォンなどで履修登録を行うシステム）で登録してください。

履修登録した内容の修正期間を設けています。指定された期間内に各自が必ず確認してください。

なお、登録・修正期間内に履修登録をしないと授業を受けることができません。また、修正期間以外に履修登録を取り消すことはできません。

（４）再履修科目

成績評価が「D」（不合格）となった科目を再履修するためには、再度、履修登録をしなければなりません。

（５）その他

休学等から復学した場合や、「D」（不合格）のため再履修する場合など、履修に関して不明な点がある時は、必ず指導教員の指導を受けてください。

【試験】

（１）試験

試験は、各学期の授業終了時に期間を定めて行います。ただし、担当教員（科目責任者）の判断により随時行われることがあります。

- ① 試験は、履修登録をしていない場合及び原則としてその科目の授業時間数の2/3以上出席していない場合には、受けることができません。
- ② 試験を受ける際には、「学生証」が必要です。
- ③ 試験開始後30分を経過した場合は、その試験を受験することはできません。
- ④ 不正行為を行った場合、その学期に履修登録のある全ての授業科目の成績の評価は「D」となります。そのほか、懲戒処分を受ける可能性があります。レポートの作成・提出にあたって不正行為を行った場合も同様です。

（２）追試験

病気その他やむを得ない理由により、定められた期日に試験を受けることができなかった場合、申請により、追試験を受けることができます。

追試験を希望する場合は、その科目の試験日から一週間以内に「追試験願」を、担当教員（科目責任者）に提出してください。追試験の日程等については、担当教員（科目責任者）との調整になります。

（３）再試験

試験もしくは追試験の結果、担当教員が必要と認めた場合に再試験を行うことがあります。再試験の合格者の成績は、すべてCとなります。

(4) レポート

レポートの提出については、担当教員の指導に従ってください。

【成績】

(1) 成績の評価

成績は、授業への取組、レポート、試験等を総合的に判断して評価されます。各科目の評価方法については各授業科目のシラバスを参考にしてください。成績の評価基準は次のとおりです。

評価	意味
S	到達目標を十分に達成しているきわめて優秀な成績
A	到達目標を十分に達成している優秀な成績
B	到達目標をおおむね達成している成績
C	到達目標を最低限度達成している成績
D	到達目標を達成していない成績

(2) 成績の通知等

成績簿は、次の期間、CampusAvenueにて閲覧及び印刷することができます。

	成績開示期間	「成績に関する確認届」 提出期限
前期科目の成績	同年度の9月中旬頃～12月中旬頃	成績通知簿を通知した日 から起算して7日以内
後期科目の成績	同年度の3月中旬頃～翌年度の6月末頃	

※ ここでいう「7日以内」には、土日祝日は含みません。

※ 成績開示初日に成績が開示されなかった科目については、成績が開示された日から7日以内とします。

※ 成績開示期間の詳細な日時については、CampusAvenue等にて別途通知します。

なお、次の理由により、成績の確認を行いたい場合は、上記期間内に「成績に関する確認届」により申し出ることができます。

- ① 通知された成績評価が、シラバスや授業中に提示されている成績評価方針及び基準に照らし、大きく異なると想定される場合
- ② 履修登録を行い、レポート提出、定期試験を受験したにもかかわらず、成績簿に成績が記載されていないなど、誤った処理がなされた疑いがある場合

届出た翌日から原則7日以内（土日祝日を含む）に授業を担当する教員（科目責任者）が確認の上、回答します。また、成績確認を行ってもなお疑義がある場合には、成績確認の回答を受け取った日から7日以内（土日祝日を含む）に「成績評価に関する不服申立書」を提出することで、不服申立てを行うことができます。

様式の配布及び届出先は、事務局教務・入試担当窓口です。

6. 教育課程

○ 修了要件(2025 年 4 月 1 日以降入学者)

(カリキュラム 2019)

2 年以上在籍し、次に掲げる単位を修得するとともに、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び試験に合格すること。

●一般 (CNS 課程履修者以外)

●共通科目 (10 単位以上)

共通必修科目 2 単位、共通選択科目 8 単位以上を修得すること。

※ 共通選択科目で修得すべき 8 単位には、他専修の専門科目のうち授業形態が講義の科目で修得した単位を含むことができる。

○専門科目

・看護学専修 (20 単位以上 (うち特別研究 12 単位)) : 看護基盤科学及び看護実践科学から 8 単位以上を修得すること。

・リハビリテーション学専修 (20 単位以上 (うち特別研究 14 単位)) :

「リハビリテーション教育学Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得した場合、博士後期課程では同科目の単位を修得することができない。

「リハビリテーション教育学Ⅰ・Ⅱ」は修了要件の単位に含めない。

・健康福祉科学専修 (20 単位以上 (うち特別研究 12 単位)) : 健康福祉基礎科学、健康情報実践学、社会福祉実践学及び検査技術実践学の中から 8 単位以上を修得すること。

※CNS 課程履修者以外が履修できる CNS 科目もあるため、履修を希望する場合は、事前に科目責任者に連絡をすること。

〈認定社会福祉士〉

本学で開講する科目の一部は、認定社会福祉士の資格取得のために必要な研修 (大学院 (教育基幹) ルート) として、認定社会福祉士認証・認定機構の認証を受けており、下表の科目及び「スーパービジョン研修 (2 単位)」を合計して 18 単位取得することが研修修了の要件となる。なお、「スーパービジョン研修 (2 単位)」は必須であるが、授業科目として本学が開講するものではない。

その他の資格取得の要件も含め、詳細は認定社会福祉士認証・認定機構のホームページを参照すること。

また、社会福祉士の資格を有し、認定社会福祉士の資格取得を希望する者に対しては受講後に修了証を交付するので、教務担当まで申し出ること。

本学で開講する、認定社会福祉士認証・認定機構の認証を受けた科目

科目名	研修認証番号	科目責任者	単位数
ソーシャルケア実践のマネジメントと研究	20240006	寫末憲子	1
ソーシャルケア実践の評価と研究	20240007	寫末憲子	1
ソーシャルワーク特論	20240013	保科寧子	2
健康福祉科学特別研究Ⅰ	20240014	小澤明彦	6
健康福祉科学特別研究Ⅱ	20240015	小澤明彦	6

●CNS 課程履修者（2020 年 4 月 1 日以降入学者）

CNS 教育課程を履修者は、研究課題届出書（様式 1 号）にて、履修および履修領域を届け出ること。

●共通科目（2 単位以上）

共通必修科目 2 単位

○専門科目（44 単位以上（専攻分野の CNS 関連科目及び実践看護課題研究を含む。））

- ・ CNS 共通科目として、「フィジカルアセスメント」、「病態生理学」、「臨床薬理学」を修得すること。
- ・ CNS 選択科目として、「コンサルテーション論」、「看護理論」「看護研究」「看護学教育論」「看護管理システム論」「看護倫理」（以上専門科目）から 8 単位以上を修得すること。
- ・ 「実践看護課題研究」（6 単位）を履修し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び試験に合格すること。
- ・ CNS 課程の専攻分野ごとに定められた次の科目を修得すること。

精神看護： 「精神看護制度論」「精神科治療論Ⅰ」「精神科治療論Ⅱ」「地域精神看護論」
「精神看護学演習」「精神看護援助法」「精神実践看護実習Ⅰ」「精神実践看護実習Ⅱ」
「精神実践看護実習Ⅲ」「精神実践看護実習Ⅳ」

小児看護： 「小児健康生活論」「小児看護学特論」「小児病態・治療学」「小児保健医療福祉論」
「小児看護学演習」「小児看護援助法Ⅰ」「小児看護援助法Ⅱ」「小児実践看護実習Ⅰ」
「小児実践看護実習Ⅱ」「小児実践看護実習Ⅲ」

がん看護： 「がん看護学概論」「がん病態生理学」「がん看護学援助論Ⅰ」「がん看護学援助論Ⅱ」
「がん看護学援助論Ⅲ」「がん看護学演習Ⅰ」「がん看護学演習Ⅱ」
「がん実践看護実習Ⅰ」「がん実践看護実習Ⅱ」「がん実践看護実習Ⅲ」

※ 上記の CNS 関連科目を含めて、専門科目から 44 単位以上（うち看護基盤科学から 14 単位、看護実践科学ならびに看護学演習から 14 単位、看護学実習 10 単位）を修得すること。これにより、CNS 課程履修者の修了に要する単位数は 46 単位となる。

※ CNS 教育課程履修者が CNS 教育課程の履修をやめる場合は、原則として、1 年次の間に、かつデザイン発表を行う前に担当教員に許可を得て、研究課題届出書（様式 1 号）を再提出すること。

（デザイン発表以降は、修学上、特に必要と大学院教務委員会が認める場合に限り、教育課程の変更を可能とする。ただし、教育課程の変更に伴い、看護学演習 2 単位を新たに履修することが必要となる。教務委員会の審議で教育課程の変更が認められた場合は、研究に関連する科目として、看護学演習 2 単位を新たに履修し、実践看護課題研究Ⅰ（3 単位）を特別研究Ⅰ（5 単位）に読み替えることとする。）

※ CNS 教育課程履修者が CNS 教育課程の履修をやめて、一般（CNS 課程履修者以外）を履修する場合は、一般（CNS 課程履修者以外）の修了要件を満たすことが必要になる。看護学専門科目のうち「フィジカルアセスメント」「病態生理学」「臨床薬理学」「コンサルテーション論」については、共通科目に読み替えることができる。

●教職課程 養護教諭専修免許履修者（2025 年 4 月 1 日以降入学者）

養護教諭専修免許状を取得するためには、修了要件を満たすとともに、以下の科目から 24 単位以上を修得すること。なお、養護教諭専修免許状の取得には、養護教諭一種免許状が必要です。

※養護教諭として 3 年以上の教員経験を有する場合、15 単位の修得で専修免許状の申請が可能です。

（詳細は都道府県教育委員会に確認すること。）

※修得した単位は、修了要件に含めることができる。

養護教諭専修免許状取得のための養護に関する科目

●共通科目

「I P W 論（専門職連携実践論）」「保健医療福祉概論」「保健医療福祉研究法特論」
「保健医療福祉とリハビリテーション」「高次脳機能と病態制御」「予防医学特論」
「応用人体構造機能論」「臨床薬理学」「養護実践特論」

○専門科目

・看護学専修

（看護基盤科学）

「コンサルテーション論」「看護学教育論」「広域看護学特論」「フィジカルアセスメント」
「ヘルスプロモーション論」

（看護実践科学）

「地域ケア支援論」「小児健康生活論」「小児看護学特論」「リプロダクティブヘルス論」

・健康福祉科学専修

（健康福祉基礎科学）

「健康福祉社会調査論」「健康支援カウンセリング論」

（健康情報実践学）

「統計分析法」「健康運動実践学特論」

（社会福祉実践学）

「ソーシャルワーク特論」「子ども若者支援論」

〈単位互換〉

埼玉大学単位互換は全専修受講可、社会学分野単位互換は健康福祉科学専修（社会福祉領域）のみ受講可

【単位】

	博士前期課程		博士後期課程	
単位互換区分	区分	単位数の上限	科目区分	単位数の上限
埼玉大学大学院	共通科目	修了 4	共通科目	修了 4
	専門科目		専門科目	
大学院社会学分野 単位互換制度※	専門科目	修了 4	専門科目	修了 4

- ・ 本学の博士前期課程・博士後期課程の学生は、修了に必要な単位として本学が開講する共通選択科目または専門科目の合計 4 単位に読み替えることができる。ただし特別研究以外に本学が開講する専門科目から 2 単位以上修得することとする。単位互換はあくまで共通科目及び専門科目の選択肢を拡げることが目的としていることから、同一の科目区分の修了に必要な単位を単位互換のみで修得することは認めない。
- ・ 健康福祉科学専修（社会福祉領域）において、大学院社会学分野単位互換制度を選択する場合、単位数の上限は 4 単位であるが、埼玉大学大学院での科目も受講する場合、大学院社会学分野単位互換制度および埼玉大学大学院での科目の単位をあわせて 4 単位を上限とする。
- ・ 他大学院の科目は本学の科目区分に当てはめて単位認定を行うこととする。埼玉大学大学院の各科目は、先方から提示された受け入れ科目を大学院教務委員会が確認し、本学の修了に必要な単位として認定できる科目について、本学の科目区分を設定する。社会学分野単位互換制度による他大学の各科目は、幹事校から示された科目一覧から、学生が履修を希望する科目を個別に指導教員に申し出ることとする。指導教員は科目の内容を確認し、修了に必要な単位として認定できる科目と認めた場合は、受け入れ先の大学院に申請を行う。社会学分野単位互換制度で修得した単位は、健康福祉科学専修（または領域）の専門科目として修了に必要な単位に認定する。
- ・ なお、単位数の上限を超えて修得した単位については、修了に必要な単位としては認定しないが、査外科目として単位を認定する。（修了に必要な単位として認定する単位と合わせて上限 15 単位まで。）
- ・ 博士前期課程の CNS 課程履修者は単位互換の対象外とする。（CNS 課程として認定を受けた科目を履修する必要があるため）

※関東圏の大学院社会学分野が参加する単位互換制度

○ 共通科目

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数		授業 形態	科目責任者	開講場所	開講時期	時間割 番号	備 考		
			必修	選択						CNS		
科 必 共 目 修 通	IPW論(専門職連携実践論)①・②	1・2	2		講義	國澤 尚子	本校	前期	m01	必修	※ 2単位必修 開講時期、内容によって①・②に分かれて いるため、シラバスを確認し、履修すること。	
						中村 裕美	本校	後期	m01c			
科 福 保 目 祉 健 基 医 礎 療	保健医療福祉概論	1・2		2	講義	田口 孝行	本校	前期	m02	8単位以上選択	共通選択科目で修得すべき8単位に、他専修の 専門科目のうち授業形態が講義の科目で修得した 単位を含むことができる。	
	保健医療福祉研究法特論	1・2		2	講義	田中 健一	本校	前期	m03			
統 保 括 福 健 科 祉 医 目 療	国際保健医療福祉論	1・2		2	講義	山口 乃生子	本校	前期	m15			
	保健医療福祉とリハビリテーション	1・2		2	講義	小澤 昭彦	本校	前期	m16			
	保健医療福祉学際英語	1・2		2	講義	中村 裕美	本校	前期	m17			
	病院・介護・福祉施設運営管理論	1・2		2	講義	筒井 孝子	本校	前期	m18			
保 支 持 科 療 目 福 祉	高次脳機能と病態制御	1・2		2	講義	田中 健一	本校	後期	m21			
	予防医学科学特論	1・2		2	講義	竹島 太郎	本校	前期	m22			
	応用人体構造機能論	1・2		2	講義	高柳 雅朗	本校	前期	m23			
	養護実践特論	1・2		2	講義	上原 美子	本校	前期	m24			

○ 専門科目【看護学専修】

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数		授業 形態	科目責任者	開講場所	開講時期	時間割 番号	備 考	
			必修	選択						CNS	
看護 基盤 科学	看護理論	1・2		2	講義	常盤 文枝	本校	前期	mn01	選択	8単位以上選択 CNS課程履修者は、「フィジカルアセスメント」、「病態生理学」、「臨床薬理学」を修得すること。 また、「コンサルテーション論」「看護理論」「看護学教育論」「看護管理システム論」「看護倫理」「看護研究」から8単位以上及び専攻分野ごとに次の科目を履修しなければならない。 ※専門科目のうち「コンサルテーション論」、「フィジカルアセスメント」、「病態生理学」、「臨床薬理学」は、CNS課程履修者として履修登録された後、一般(CNS課程履修者以外)へ課程変更して修了する場合に限り共通科目として履修することができる。 ・精神看護 「精神看護制度論」「精神科治療論Ⅰ」「精神科治療論Ⅱ」「地域精神看護論」「精神看護学演習」「精神看護援助法」「精神実践看護実習Ⅰ」「精神実践看護実習Ⅱ」「精神実践看護実習Ⅲ」「精神実践看護実習Ⅳ」 ・小児看護 「小児健康生活論」「小児看護学特論」「小児病態・治療学」「小児保健医療福祉論」「小児看護学演習」「小児看護援助法Ⅰ」「小児看護援助法Ⅱ」「小児実践看護実習Ⅰ」「小児実践看護実習Ⅱ」「小児実践看護実習Ⅲ」
	看護研究	1・2		2	講義	飯岡 由紀子	本校	前期	mn02	選択	
	看護学教育論	1・2		2	講義	高橋恵子	本校	前期	mn10	選択	
	看護管理システム論	1・2		2	講義	渡邊千登世	本校	前期	mn12	選択	
	基礎看護技術・看護工学	1・2		2	講義	鈴木 玲子	サテライト	前期	mn13s		
	看護倫理	1・2		2	講義	飯岡 由紀子	本校	後期	mn13a	選択	
	ヘルスプロモーション論	1・2		2	講義	石崎 順子	本校	前期	mc04a		
	広域看護学特論	1・2		2	講義	関 美雪	本校	前期	mn13c2		
	保健医療福祉と臨床精神医学	1・2		2	講義	金野 倫子	本校	後期	mc04b		
	コンサルテーション論	1・2		2	講義	森田 牧子	本校	後期	mc01	選択	
	フィジカルアセスメント	1・2		2	講義	鈴木 玲子	本校	前期	mc02	必修	
	病態生理学	1・2		2	講義	武田 美津代	本校	集中	mc03	必修	
	臨床薬理学	1・2		2	講義	田中 健一	本校	集中	mc04	必修	
看護 実践 科学	地域ケア支援論	1・2		2	講義	善生 まり子	本校	前期	mn14		・がん看護 「がん看護学概論」「がん病態生理学」「がん看護学援助論Ⅰ」「がん看護学援助論Ⅱ」「がん看護学援助論Ⅲ」「がん看護学演習Ⅰ」「がん看護学演習Ⅱ」「がん実践看護実習Ⅰ」「がん実践看護実習Ⅱ」「がん実践看護実習Ⅲ」
	在宅看護学特論	1・2		2	講義	善生 まり子	本校	前期	mn14a		
	精神科治療論Ⅰ	1・2		2	講義	森田 牧子	本校	前期	mc05	精神	
	精神科治療論Ⅱ	1・2		2	講義	江口 のぞみ	本校	前期	mc06	精神	
	精神看護制度論	1・2		2	講義	江口 のぞみ	本校	前期	mn15a	精神	
	地域精神看護論	1・2		2	講義	森田 牧子	本校	前期	mc07	精神	
	成人看護援助論	1・2		2	講義	常盤 文枝	本校	後期	mn16		
	小児健康生活論	1・2		2	講義	櫻井 育穂	本校	前期	mn17a	小児	
	小児看護学特論	1・2		2	講義	横山 由美	本校	前期	mn17	小児	
	小児保健医療福祉論	1・2		2	講義	横山 由美	本校	前期	mn17b	小児	
	小児病態・治療学	1・2		2	講義	横山 由美	本校	集中	mc08	小児	
	老年看護援助論	1・2		2	講義	丸山 優	本校	後期	mn18		
	リプロダクティブヘルス論	1・2		2	講義	兼宗 美幸	本校	前期	mn19		
	がん看護学概論	1・2		2	講義	飯岡 由紀子	本校	前期	mc09	がん	
	がん病態生理学	1・2		2	講義	飯岡 由紀子	本校	前期	mc10	がん	
	がん看護学援助論Ⅰ	1・2		2	講義	飯岡 由紀子	本校	前期	mc11a	がん	
	がん看護学援助論Ⅱ	1・2		2	講義	飯岡 由紀子	本校	後期	mc11b	がん	
	がん看護学援助論Ⅲ	1・2		2	講義	飯岡 由紀子	本校	後期	mc11c	がん	

◇看護学専修の専門科目は次ページに続きます。

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数	授業 形態	科目責任者	開講場所	開講時期	時間割 番号	備 考	
			必修 選択						CNS	
看護学 演習	精神看護学演習	1・2	2	演習	森田 牧子	本校	後期	mc14	精神	CNS課程履修者は、それぞれの専攻分野 の看護学演習を履修しなければならない。
	精神看護援助法	1・2	4	演習	澤田 宇多子	本校	前期	mc55	精神	
	小児看護学演習	1・2	2	演習	横山 由美	本校	前期	mc15	小児	
	小児看護援助法Ⅰ	1・2	2	演習	横山 由美	本校	後期	mc57a	小児	
	小児看護援助法Ⅱ	1・2	2	演習	櫻井 育徳	サテライト	後期	mc57b	小児	
	がん看護学演習Ⅰ	1・2	2	演習	飯岡 由紀子	本校	前期	mc12a	がん	
	がん看護学演習Ⅱ	1・2	2	演習	飯岡 由紀子	本校	後期	mc12b	がん	
看護学 実習・特別 研究	看護学特別研究Ⅰ	1・2	6	演習	國澤尚子	本校	通年	mn60c	CNS課程履修者を除く	
	看護学特別研究Ⅱ	1・2	6	演習	國澤尚子	本校	通年	mn60d		
	精神実践看護実習Ⅰ	1・2	2	実習	森田 牧子	本校	集中	mc45a	精神	CNS課程履修者は、それぞれの専攻分野 の実践看護実習及び実践看護課題研究を 履修しなければならない。
	精神実践看護実習Ⅱ	1・2	2	実習	森田 牧子	本校	集中	mc45b	精神	
	精神実践看護実習Ⅲ	1・2	4	実習	森田 牧子	本校	集中	mc45c	精神	
	精神実践看護実習Ⅳ	1・2	2	実習	森田 牧子	本校	集中	mc45d	精神	
	小児実践看護実習Ⅰ	1・2	2	実習	櫻井 育徳	本校	集中	mc47aa	小児	
	小児実践看護実習Ⅱ	1・2	2	実習	櫻井 育徳	本校	集中	mc47b	小児	
	小児実践看護実習Ⅲ	1・2	6	実習	横山 由美	本校	集中	mc47cc	小児	
	がん実践看護実習Ⅰ	1・2	2	実習	飯岡 由紀子	本校	集中	mc13a	がん	
	がん実践看護実習Ⅱ	1・2	4	実習	飯岡 由紀子	本校	集中	mc13b	がん	
	がん実践看護実習Ⅲ	1・2	4	実習	飯岡 由紀子	本校	集中	mc13c	がん	
	実践看護課題研究Ⅰ	1・2	3	演習	飯岡 由紀子	本校	通年	mc60a	必修	
	実践看護課題研究Ⅱ	1・2	3	演習	飯岡 由紀子	本校	通年	mc60b	必修	

○ 専門科目【リハビリテーション学専修】

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数		授業 形態	科目責任者	開講場所	開講時期	時間割 番号	備 考	
			必修	選択							
リハ ビ リ テ ー シ ョ ン 基 礎 科 学	臨床リハビリテーション研究法	1・2		2	講義	小栢 進也	本校	前期	mr40		
	中枢神経系の組織学的研究法	1・2		2	講義	高柳 雅朗	本校	後期	mr41		
	障害基礎解析学特論	1・2		2	講義	金村 尚彦	本校	前期	mr11		
	運動解析学特論	1・2		2	講義	山崎 弘嗣	本校	前期	mr12		
	障害予防学特論	1・2		2	講義	小栢 進也	本校	前期	mr13		
シ ョ ン リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 応 用 科 学	運動器障害治療学特論	1・2		2	講義	高崎 博司	本校	前期	mr14		
	内部機能障害治療学特論	1・2		2	講義	木戸 聡史	本校	前期	mr15		
	生活環境支援系理学療法学特論	1・2		2	講義	田口 孝行	本校	前期	mr16		
	機能適用支援系作業療法学特論	1・2		2	講義	濱口 豊太	本校	前期	mr17		
	生活環境支援系作業療法学特論	1・2		2	講義	久保田富夫	本校	前期	mr18		
	行動神経作業療法学特論	1・2		2	講義	濱口 豊太	本校	前期	mr19		
	脳機能作業療法学特論	1・2		2	講義	中村 裕美	本校	後期	mr22		
修 了 要 件	リハビリテーション教育学Ⅰ	1・2		2	講義	濱口 豊太	本校	前期	mr20	リハビリテーション教育学Ⅰ及びⅡの単位を修得 した場合、博士後期課程では、同科目の単位を修 得できない。 リハビリテーション教育学Ⅰ及びⅡは修了要件の 単位に含めない。	
	リハビリテーション教育学Ⅱ	1・2		2	講義	中村 裕美	本校	後期	mr21		
研 究 別	リハビリテーション学特別研究Ⅰ	1・2		7	演習	今北 英高	本校	通年	mr60c		
	リハビリテーション学特別研究Ⅱ	1・2		7	演習	今北 英高	本校	通年	mr60d		

○ 専門科目【健康福祉科学専修】

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数 必修 選択	授業 形態	科目責任者	開講場所	開講時期	時間割 番号	備 考
科学 健康 基礎	健康福祉社会調査論	1・2	2	講義	若林 テヒロ	本校	前期	mh03	健康福祉基礎科学、健康行動実践学、社会福祉実践学及び検査技術実践学の中から8単位以上を修得すること。
	健康支援カウンセリング論	1・2	2	講義	大塚 斉	本校	後期	mh05	
実践学 健康情報	健康運動実践学特論	1・2	2	講義	八十島 崇	本校	前期	mh18	
	定性的研究法	1・2	2	講義	本間 三恵子	本校	前期	mh52	
	統計分析法	1・2	2	講義	延原 弘章	本校	前期	mh53	
	データヘルス特論	1・2	2	講義	津野 陽子	本校	後期	mh54	
	政策評価論	1・2	2	講義	柴田 亜希	本校	前期	mh55	
	地域課題研究	1・2	2	演習	北畠 義典	本校	通年	mh56	
実践学 社会福祉	社会保障政策論	1・2	2	講義	石崎 浩	本校	前期	mh32	
	地域包括ケアシステム論	1・2	2	講義	筒井 孝子	本校	後期	mh31	
	ソーシャルワーク特論	1・2	2	講義	保科 寧子	本校	前期	mh23	
	子ども若者支援論	1・2	2	講義	林 恵津子	本校	前期	mh29	
	ソーシャルケア実践のマネジメントと研究	1・2	1	講義	嵩末 憲子	本校	後期	mh50	
	ソーシャルケア実践の評価と研究	1・2	1	講義	嵩末 憲子	本校	前期	mh51	
	保健医療福祉と臨床精神医学	1・2	2	講義	金野 倫子	本校	後期	mc04b	
実践学 検査技術	病因病態検査学	1・2	2	講義	村井 美代	本校	前期	mh27	
	生体情報評価学	1・2	2	講義	久保田 亮	本校	前期	mh28	
研究別	健康福祉科学特別研究Ⅰ	1・2	6	演習	小澤 昭彦	本校	通年	mh60c	
	健康福祉科学特別研究Ⅱ	1・2	6	演習	小澤 昭彦	本校	通年	mh60d	

7. 各専修の履修例

○ 看護学専修の履修例

(1) 成人看護学	1 6
(2) がん看護CNS課程	1 7
(3) 地域・在宅看護学	1 8
(4) 老年看護学	1 9
(5) 母性看護学（長期履修3年）	2 0
(6) 精神看護CNS課程	2 1
(7) 小児看護CNS課程（長期履修3年）	2 2
(8) 養護教諭専修免許取得（在職年数3年未満）	2 3
(9) 養護教諭専修免許取得（在職年数3年以上）	2 4

○ リハビリテーション学専修の履修例

(1) リハビリテーション基礎科学系 （理学療法士・作業療法士の資格がない場合）	2 5
(2) リハビリテーション応用学系（理学療法学）	2 6
(3) リハビリテーション応用学系（理学療法学）（長期履修3年）	2 7
(4) リハビリテーション応用学系（作業療法学）	2 8
(5) リハビリテーション応用学系（作業療法学）（長期履修4年）	2 9

○ 健康福祉科学専修の履修例

(1) 保健医療福祉行政職員をイメージ	3 0
(2) 保健医療福祉の実践者をイメージ	3 1
(3) 保健医療福祉の実践者をイメージ（長期履修4年）	3 2
(4) 保健医療福祉行政職員をイメージ	3 3
(5) 保健医療福祉の実践者をイメージ	3 4
(6) 保健医療福祉の実践者をイメージ（長期履修4年）	3 5
(7) 臨床検査関連業務の実践者をイメージ	3 6
(8) 臨床検査関連業務の実践者をイメージ（長期履修4年）	3 7
(9) 養護教諭専修免許取得（在職年数3年未満）	3 8
(10) 養護教諭専修免許取得（在職年数3年以上）	3 9

4. 各専修の履修例

○ 看護学専修の履修例

(1) 成人看護学

履修科目	履修年次・単位数		
	1年	2年	計
【共通必修科目】 ●必修2単位 IPW論(専門職連携実践論)	● 2		
【共通選択科目】 ○選択8単位以上 保健医療福祉概論 保健医療福祉研究法特論 国際保健医療福祉論 保健医療福祉とリハビリテーション 保健医療福祉学際英語 病院・介護・福祉施設運営管理論 高次脳機能と病態制御 予防医科学特論 応用人体構造機能論 養護実践特論	○ 2 ○ 2 ○ 2 ○ 2		
共通(必修・選択)科目 計	10		10
【専門科目】 ○選択：看護基盤科学・看護実践科学から8単位 (看護基盤科学) コンサルテーション論 看護理論 看護研究 看護学教育論 看護管理システム論 基礎看護技術・看護工学 看護倫理 ヘルスプロモーション論 広域看護学特論 保健医療福祉と臨床精神医学 (看護実践科学) 地域ケア支援論 在宅看護学特論 精神看護援助論 精神看護制度論 成人看護援助論 小児健康生活論 小児看護学特論 小児保健医療福祉論 老年看護援助論 リプロダクティブヘルズ論 がん看護学特論	○ 2 ○ 2 ○ 2 ○ 2		
専門科目 計	8	0	8
【特別研究】 ●必修12単位 看護学特別研究Ⅰ 看護学特別研究Ⅱ			
	●6		
	●6		
特別研究 計	12		12
合 計	18	0	30
期待される能力			
健康課題をもつ人々に質の高い看護サービスを有効かつ適切に提供するのみならず、看護に関わる事象を検証し、看護を発展させる能力を有することが期待される。			
修了後の主な進路			
保健・医療・福祉機関、教育機関等における実践および教育・研究に携わる			

※ ●○横の数字は単位数を表す。

(2) がん看護CNS課程

※ 本学必修科目及びCNS資格取得のための科目を含め、修了に46単位必要である。

○ 看護学専修の履修例

(3) 地域看護学

履 修 科 目	履修年次・単位数		
	1年	2年	計
【共通必修科目】 ●必修2単位 IPW論(専門職連携実践論)	● 2		
【共通選択科目】 ○選択8単位以上 保健医療福祉概論 保健医療福祉研究法特論 国際保健医療福祉論 保健医療福祉とリハビリテーション 保健医療福祉学際英語 病院・介護・福祉施設運営管理論 高次脳機能と病態制御 予防医科学特論 応用人体構造機能論 養護実践特論 (他専修専門科目) 地域包括ケアシステム論	○ 2 ○ 2 ○ 2 ○ 2		
共通(必修・選択)科目 計	10		10
【専門科目】 ○選択:看護基盤科学・看護実践科学から8単位 (看護基盤科学) コンサルテーション論 看護理論 看護研究 看護学教育論 看護管理システム論 基礎看護技術・看護工学 看護倫理 ヘルスプロモーション論 広域看護学特論 保健医療福祉と臨床精神医学 (看護実践科学) 地域ケア支援論 在宅看護学特論 精神看護援助論 精神看護制度論 成人看護援助論 小児健康生活論 小児看護学特論 小児保健医療福祉論 老年看護援助論 リプロダクティブヘルス論 がん看護学特論	○ 2 ○ 2 ○ 2 ○ 2		
専門科目 計	8	0	8
【特別研究】 ●必修12単位 看護学特別研究Ⅰ 看護学特別研究Ⅱ	● 6 ● 6		
特別研究 計	12		12
合 計	18	0	30
期待される能力 人々の暮らしの中で起こる健康問題を分析・評価し、問題解決に向けた方策を計画・実施する能力、関係する人々と協働し新たなサービスやシステムを創造・発展させる能力、自らの能力を開発・向上させる能力の修得をめざす。			
修了後の主な進路 地域の医療機関、行政の保健医療福祉部門、産業保健部門等の臨床現場でリーダーシップを発揮して実践と指導を行う他、教育機関等において教育・研究に携わる。			

※ ●○横の数字は単位数を表す。

(4) 老年看護学

※ ●○横の数字は単位数を表す。

○ 看護学専修の履修例

(5) 母性看護学(長期履修3年)

履 修 科 目	履修年次・単位数			
	1年	2年	3年	計
【共通必修科目】 ●必修2単位 IPW論(専門職連携実践論)	● 2			
【共通選択科目】 ○選択8単位以上 保健医療福祉概論 保健医療福祉研究法特論 国際保健医療福祉論 保健医療福祉とリハビリテーション 保健医療福祉学際英語 病院・介護・福祉施設運営管理論 高次脳機能と病態制御 予防医学特論 応用人体構造機能論 養護実践特論 (他専修専門科目) 健康支援カウンセリング論	○ 2 ○ 2 ○ 2			
共通(必修・選択)科目 計	8	2		10
【専門科目】 ○選択:看護基盤科学・看護実践科学から8単位 (看護基盤科学) コンサルテーション論 看護理論 看護研究 看護学教育論 看護管理システム論 基礎看護技術・看護工学 看護倫理 ヘルスプロモーション論 広域看護学特論 保健医療福祉と臨床精神医学 (看護実践科学) 地域ケア支援論 在宅看護学特論 精神看護援助論 精神看護制度論 成人看護援助論 小児健康生活論 小児看護学特論 小児保健医療福祉論 老年看護援助論 リプロダクティブヘルス論 がん看護学特論	○ 2	○ 2 ○ 2		
専門科目 計	4	4		8
【特別研究】 ●必修12単位 看護学特別研究Ⅰ 看護学特別研究Ⅱ		●6 ●6		
特別研究 計		12		12
合 計	12	6	0	30
期待される能力 小中学校・高校と連携して地域で性感染症、10代の妊娠等の思春期の健康問題に取り組み、新たなサービスを創出することを目指す。また、従来の学校保健、産婦人科医療の枠を超えた保健サービスの機会や場を探究し、看護職の活動を拡大していくことが期待される。				
修了後の主な進路 医療機関、教育機関、行政、産業等多分野の母性看護に関わる領域で実践者および指導者としてリーダーシップを発揮する。				

※ ●○横の数字は単位数を表す。

(6) 精神看護CNS課程

※ ●○横の数字は単位数を表す。
※ 本学必修科目及びCNS資格取得のための科目を含め、修了に46単位必要である。

○ 看護学専修の履修例
(7) 小児看護CNS課程

履 修 科 目	履修年次・単位数							計	CNS課程科目との関係
	1年		2年		3年				
	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
【共通必修科目】 ●必修2単位 IPW論(専門職連携実践論) 【共通選択科目】 ○選択8単位以上 保健医療福祉概論 保健医療福祉学研究法特論 国際保健医療福祉論 保健医療福祉とリハビリテーション 保健医療福祉学際英語 病院・介護・福祉施設運営管理論 高次脳機能と病態制御 予防医科学特論 応用人体構造機能論 養護実践特論 (他専修専門科目) 定性的研究法	● 2								CNS共通科目 *から8単位必須
共通(必修・選択)科目 計	2	0	0	0	0	0	0	2	
【専門科目】 ●CNS必修:30単位(共通科目B 6単位+専門科目24単位) *CNS共通科目Aから8単位									
(看護基盤科学) コンサルテーション論* 看護理論* 看護研究* 看護学教育論* 看護管理システム論* 基礎看護技術・看護工学 看護倫理* ヘルスプロモーション論 広域看護学特論 保健医療福祉と臨床精神医学 フィジカルアセスメント 病態生理学 臨床薬理学		○ 2							CNS共通科目A(2単位) CNS共通科目A(2単位) CNS共通科目A(2単位) CNS共通科目A(2単位)
(看護実践科学) 小児健康生活論 小児看護学特論 小児病態・治療学 小児保健医療福祉論	○ 2								
(看護学演習) 小児看護学演習 小児看護援助法Ⅰ 小児看護援助法Ⅱ									
(看護学実習) 小児実践看護実習Ⅰ 小児実践看護実習Ⅱ 小児実践看護実習Ⅲ									
専門科目 計	12	10	10	0	6	0	38		
【特別研究】 ●必修6単位 実践看護課題研究Ⅰ 実践看護課題研究Ⅱ									
特別研究 計									
合 計	14	10	10	0	6	0	46		
期待される能力 子どもと家族の状態(発達・健康・生活)をアセスメントし、直接的ケア、倫理的判断能力を発揮した調整、多職種や他の看護職との調整、相談、教育機能など必要な看護を高度な技術をもちいて実践できる。小児看護領域の援助・方略を開発できる。小児看護の発展を考え、研究成果を活用できる。									
修了後の主な進路 健康上の課題を持つ子どもとその家族を支援する保健・医療・福祉・教育の現場(小児医療施設、障害児施設、特別支援学校など)									

※ ●○横の数字は単位数を表す。
※ 本学必修科目及びCNS資格取得のための科目を含め、修了に46単位必要である。

(8) 養護教諭專修免許取得(在職年数3年未滿)

履修科目	履修年次・単位数		
	1年	2年	計
【共通必修科目】 ●必修2単位 IPW論(専門職連携実践論)※	● 2		
【共通選択科目】 ○選択8単位以上 保健医療福祉概論※ 保健医療福祉研究法特論※ 国際保健医療福祉論 保健医療福祉とリハビリテーション※ 保健医療福祉学際英語 病院・介護・福祉施設運営管理論 高次脳機能と病態制御※ 予防医科学特論※ 応用人体構造機能論※ 臨床薬理学※ 養護実践特論※ (他専修専門科目) 健康福祉社会調査論※	○ 2 ○ 2 ○ 2 ○ 2 ○ 2 ○ 2 ○ 2	 ○ 2 ○ 2 	
共通(必修・選択)科目 計	14	4	18
【専門科目】 ○選択：看護基盤科学・看護実践科学から8単位 (看護基盤科学) コンサルテーション論※ 看護理論 看護研究 看護学教育論※ 看護管理システム論 基礎看護技術・看護工学 看護倫理 広域看護学特論※ フィジカルアセスメント※ ヘルスプロモーション論※ (看護実践科学) 地域ケア支援論※ 在宅看護学特論 精神看護援助論 精神看護制度論 成人看護援助論 小児健康生活論※ 小児看護学特論※ 小児保健医療福祉論 老年看護援助論 リプロダクティブヘルス論※ がん看護学特論	○ 2 ○ 2 ○ 2 ○ 2	○ 2 ○ 2 ○ 2 ○ 2	CNS共通科目
専門科目 計	8	8	16
【特別研究】 ●必修12単位 看護学特別研究Ⅰ 看護学特別研究Ⅱ	● 6 ● 6		
特別研究 計	12		12
合 計	22	12	46
期待される能力 こどもを取り巻く現代的健康課題の背景には、様々な問題が複雑に絡み合っており、教育、福祉、心理、医療、保健、司法などの諸領域がそれぞれの専門性を発揮することが望まれる。企画力、判断力、対応力など自らの能力を開発・向上させるとともにそれら関係する人々と協働し、こどもたちの未来に責任をもつ専門職としての高度化をめざす。			
修了後の主な進路 各種学校の養護教諭として、指導的な立場で企画立案を实践する。			

23

○ 看護学専修の履修例

(9) 養護教諭専修免許取得(在職年数3年以上)

※養護教諭専修免許状取得のための養護に関する科目

履 修 科 目	履修年次・単位数		
	1年	2年	計
【共通必修科目】 ●必修2単位 IPW論(専門職連携実践論)※	● 2		
【共通選択科目】 ○選択8単位以上 保健医療福祉概論※ 保健医療福祉研究法特論※ 国際保健医療福祉論 保健医療福祉とリハビリテーション※ 保健医療福祉学際英語 病院・介護・福祉施設運営管理論 予防医科学特論※ 応用人体構造機能論※ 臨床薬理学※ 養護実践特論※ (他専修専門科目) 健康福祉社会調査論※	○ 2 ○ 2		
共通(必修・選択)科目 計	10	0	10
【専門科目】 ○選択:看護基盤科学・看護実践科学から8単位 (看護基盤科学) コンサルテーション論※ 看護理論 看護研究 看護学教育論※ 看護管理システム論 基礎看護技術・看護工学 看護倫理 広域看護学特論※ フィジカルアセスメント※ ヘルスプロモーション論※ (看護実践科学) 地域ケア支援論※ 在宅看護学特論 精神看護援助論 精神看護制度論 成人看護援助論 小児健康生活論※ 小児看護学特論※ 小児保健医療福祉論 老年看護援助論 リプロダクティブヘルス論※ がん看護学特論	○ 2 ○ 2 ○ 2 ○ 2		CNS共通科目
専門科目 計	8	0	8
【特別研究】 ●必修12単位 看護学特別研究Ⅰ 看護学特別研究Ⅱ		●6 ●6	
特別研究 計		12	12
合 計	18	0	30
期待される能力 こどもを取り巻く現代的健康課題の背景には、様々な問題が複雑に絡み合っており、教育、福祉、心理、医療、保健、司法などの諸領域がそれぞれの専門性を発揮することが望まれる。企画力、判断力、対応力など自らの能力を開発・向上させるとともにそれら関係する人々と協働し、こどもたちの未来に責任をもつ専門職としての高度化をめざす。			
修了後の主な進路 各種学校の養護教諭として、指導的な立場で企画立案を実践する。			

※ ●○横の数字は単位数を表す。

○ リハビリテーション学専修の履修例

(1) リハビリテーション基礎科学系（理学療法士・作業療法士の資格がない場合）

履 修 科 目	履修年次・単位数		
	1年次	2年次	計
【共通必修科目】 ●必修2単位 IPW論（専門職連携実践論） 【共通選択科目】 ○選択8単位以上 保健医療福祉概論 保健医療福祉研究法特論 国際保健医療福祉論 保健医療福祉とリハビリテーション 保健医療福祉学際英語 病院・介護・福祉施設運営管理論 高次脳機能と病態制御 予防医学特論 応用人体構造機能論 養護実践特論	●2 ○2		
共通（必修・選択）科目 計	10		10
【専門科目】 ○選択6単位以上 （リハビリテーション基礎科学） 臨床リハビリテーション研究法 中枢神経系の組織学的研究法 障害基礎解析学特論 運動解析学特論 障害予防学特論 リハビリテーション教育学Ⅰ リハビリテーション教育学Ⅱ （リハビリテーション応用科学） 運動器障害治療学特論 内部機能障害治療学特論 生活環境支援系理学療法学特論 機能適用支援系作業療法学特論 行動神経作業療法学特論 脳機能作業療法学特論	○2 ○2	○2	リハビリテーション教育学Ⅰ及びⅡの単位を修得した場合、博士後期課程では、同科目の単位を修得できない。 リハビリテーション教育学Ⅰ及びⅡは修了要件の単位に含めない。
専門科目 計	4	2	6
【特別研究】 ●必修14単位 リハビリテーション学特別研究Ⅰ リハビリテーション学特別研究Ⅱ	●7 ●7		
特別研究 計	14		14
合 計	14	2	30
期待される能力 リハビリテーション学的見地から各種障害から生じる生活場面での動作障害を多角的に分析し、生活の質の向上と障害予防を実践する知識と技術力を養う。また、保健・医療・福祉領域に関わる他職種との相互理解と連携を行いうる能力を培う。			
修了後の主な進路 福祉行政機関などにおける管理者として他の職員の指導や企画立案の実践に携わる、教育機関などにおける教育・研究、研修指導に携わる。			

※ ●○横の数字は単位数を表す。

○ リハビリテーション学専修の履修例

(2) リハビリテーション応用学系（理学療法学）

履 修 科 目	履修年次・単位数		
	1年次	2年次	計
【共通必修科目】 ●必修2単位 IPW論（専門職連携実践論）	●2		
【共通選択科目】 ○選択8単位以上 保健医療福祉概論 保健医療福祉研究法特論 国際保健医療福祉論 保健医療福祉とリハビリテーション 保健医療福祉学際英語 病院・介護・福祉施設運営管理論 高次脳機能と病態制御 予防医学特論 応用人体構造機能論 養護実践特論	○2 ○2 ○2 ○2		
共通（必修・選択）科目 計	10		10
【専門科目】 ○選択6単位以上 （リハビリテーション基礎科学） 臨床リハビリテーション研究法 中枢神経系の組織学的研究法 障害基礎解析学特論 運動解析学特論 障害予防学特論 リハビリテーション教育学Ⅰ リハビリテーション教育学Ⅱ （リハビリテーション応用科学） 運動器障害治療学特論 内部機能障害治療学特論 生活環境支援系理学療法学特論 機能適用支援系作業療法学特論 行動神経作業療法学特論 脳機能作業療法学特論	○2 ○2 ○2		リハビリテーション教育学Ⅰ及びⅡの単位を修得した場合、博士後期課程では、同科目の単位を修得できない。 リハビリテーション教育学Ⅰ及びⅡは修了要件の単位に含めない。
専門科目 計	6		6
【特別研究】 ●必修14単位 リハビリテーション学特別研究Ⅰ リハビリテーション学特別研究Ⅱ		●7 ●7	
特別研究 計		14	14
合 計	16	0	30
期待される能力 理学療法の対象の中心である中枢神経障害、骨関節障害、呼吸循環障害などに対して科学的根拠に基づき論理的に統合した新たな理学療法の実践体系を構築する能力を養う。また、保健・医療・福祉領域に関わる他職種との相互理解と連携を行いうる能力を培う。			
修了後の主な進路 教育機関、医療機関、福祉施設において継続教育及び継続研究の指導者として職員や学生の能力開発に携わる。			

※ ●○横の数字は単位数を表す。

○ リハビリテーション学専修の履修例

(3) リハビリテーション応用学系（理学療法学）（長期履修3年）

履 修 科 目	履修年次・単位数			
	1年	2年	3年	計
【共通必修科目】 ●必修2単位 IPW論（専門職連携実践論）	● 2			
【共通選択科目】 ○選択8単位以上 保健医療福祉概論 保健医療福祉研究法特論 国際保健医療福祉論 保健医療福祉とリハビリテーション 保健医療福祉学際英語 病院・介護・福祉施設運営管理論 高次脳機能と病態制御 予防医科学特論 応用人体構造機能論 養護実践特論	○ 2 ○ 2	○ 2		
共通（必修・選択）科目 計	8	2		10
【専門科目】 ○選択6単位以上 （リハビリテーション基礎科学） 臨床リハビリテーション研究法 中枢神経系の組織学的研究法 障害基礎解析学特論 運動解析学特論 障害予防学特論 リハビリテーション教育学Ⅰ リハビリテーション教育学Ⅱ （リハビリテーション応用科学） 運動器障害治療学特論 内部機能障害治療学特論 生活環境支援系理学療法学特論 機能適用支援系作業療法学特論 行動神経作業療法学特論 脳機能作業療法学特論		○ 2 ○ 2		リハビリテーション教育学Ⅰ及びⅡの単位を修得した場合、博士後期課程では、同科目の単位を修得できない。 リハビリテーション教育学Ⅰ及びⅡは修了要件の単位に含めない。
専門科目 計		6		6
【特別研究】 ●必修14単位 リハビリテーション学特別研究Ⅰ リハビリテーション学特別研究Ⅱ		● 7 ● 7		
特別研究 計		14		14
合 計	8	8	0	30
期待される能力 理学療法の対象の中心である中枢神経障害、骨関節障害、呼吸循環障害などに対して科学的根拠に基づき論理的に統合した新たな理学療法の実践体系を構築する能力を養う。また、保健・医療・福祉領域に関わる他職種との相互理解と連携を行いうる能力を培う。				
修了後の主な進路 教育機関、医療機関、福祉施設において継続教育及び継続研究の指導者として職員や学生の能力開発に携わる。				

※ ●○横の数字は単位数を表す。

○ リハビリテーション学専修の履修例

(4) リハビリテーション応用学系（作業療法学）

履 修 科 目	履修年次・単位数		
	1年	2年	計
【共通必修科目】 ●必修2単位 IPW論（専門職連携実践論）	● 2		
【共通選択科目】 ○選択8単位以上 保健医療福祉概論 保健医療福祉研究法特論 国際保健医療福祉論 保健医療福祉とリハビリテーション 保健医療福祉学際英語 病院・介護・福祉施設運営管理論 高次脳機能と病態制御 予防医科学特論 応用人体構造機能論 養護実践特論 （他専修専門科目） 地域ケア支援論	○ 2 ○ 2 ○ 2 ○ 2		
共通（必修・選択）科目 計	10		10
【専門科目】 ○選択6単位以上 （リハビリテーション基礎科学） 臨床リハビリテーション研究法 中枢神経系の組織学的研究法 運動解析学特論 障害予防学特論 リハビリテーション教育学Ⅰ リハビリテーション教育学Ⅱ （リハビリテーション応用科学） 運動器障害治療学特論 内部機能障害治療学特論 生活環境支援系理学療法学特論 機能適用支援系作業療法学特論 行動神経作業療法学特論 脳機能作業療法学特論	○ 2 ○ 2 ○ 2		リハビリテーション教育学Ⅰ及びⅡの単位を修得した場合、博士後期課程では、同科目の単位を修得できない。 リハビリテーション教育学Ⅰ及びⅡは修了要件の単位に含めない。
専門科目 計	6		6
【特別研究】 ●必修14単位 リハビリテーション学特別研究Ⅰ リハビリテーション学特別研究Ⅱ	● 7 ● 7		
特別研究 計	14		14
合 計	16	0	30
期待される能力 作業療法では、対象者の機能、生活や環境を客観的に評価し、分析する能力が重要である。さらに、障がい者と家族が抱える問題に対して、専門職として相談・調整、援助、教育などの支援を行う能力が必要であり期待される。また、他職種との連携や、職場での管理能力も重要である。			
修了後の主な進路 保健・医療・福祉分野の施設において、他の職員の能力開発や計画にリーダーシップを発揮する指導者や管理者。さらに、作業療法における教育・研究活動に従事する。			

※ ●○横の数字は単位数を表す。

○ リハビリテーション学専修の履修例

(5) リハビリテーション応用学系（作業療法学）（長期履修4年）

履 修 科 目	履修年次・単位数				
	1年	2年	3年	4年	計
【共通必修科目】 ●必修2単位 IPW論（専門職連携実践論） 【共通選択科目】 ○選択8単位以上 保健医療福祉概論 保健医療福祉研究法特論 国際保健医療福祉論 保健医療福祉とリハビリテーション 保健医療福祉学際英語 病院・介護・福祉施設運営管理論 高次脳機能と病態制御 予防医科学特論 応用人体構造機能論 養護実践特論	● 2				
		○ 2 ○ 2			
	○ 2				
		○ 2			
共通（必修・選択）科目 計	4	6			10
【専門科目】 ○選択6単位以上 （リハビリテーション基礎科学） 臨床リハビリテーション研究法 中枢神経系の組織学的研究法 障害基礎解析学特論 運動解析学特論 障害予防学特論 リハビリテーション教育学Ⅰ リハビリテーション教育学Ⅱ （リハビリテーション応用科学） 運動器障害治療学特論 内部機能障害治療学特論 生活環境支援系理学療法学特論 機能適用支援系作業療法学特論 行動神経作業療法学特論 脳機能作業療法学特論		○ 2			リハビリテーション教育学Ⅰ及びⅡの単位を修得した場合、博士後期課程では、同科目の単位を修得できない。 リハビリテーション教育学Ⅰ及びⅡは修了要件の単位に含めない。
			○ 2		
			○ 2		
専門科目 計		2	4		6
【特別研究】 ●必修14単位 リハビリテーション学特別研究Ⅰ リハビリテーション学特別研究Ⅱ		● 7 ● 7			
特別研究 計		14			14
合 計	4	8	4	0	30
期待される能力 作業療法では、対象者の機能、生活や環境を客観的に評価し、分析する能力が重要である。さらに、対象者と家族が抱える問題に対して、専門職として相談・調整、援助、教育などの支援を行う能力が必要であり、期待される。また、他職種との連携や、職場での管理能力も重要である。					
修了後の主な進路 保健・医療・福祉分野の施設において、他の職員の能力開発や計画にリーダーシップを発揮する指導者や管理者。さらに、作業療法における教育・研究活動に従事する。					

※ ●○横の数字は単位数を表す。

○ 健康福祉科学専修の履修例

(1) 保健医療福祉行政職員をイメージ

履 修 科 目	履修年次・単位数		
	1年	2年	計
【共通必修科目】 ●必修2単位 IPW論(専門職連携実践論)	● 2		
【共通選択科目】 ○選択8単位以上 保健医療福祉概論 保健医療福祉研究法特論 国際保健医療福祉論 保健医療福祉とリハビリテーション 保健医療福祉学際英語 病院・介護・福祉施設運営管理論 高次脳機能と病態制御 予防医学特論 応用人体構造機能論 養護実践特論 (他専修専門科目) 地域ケア支援論	○ 2 ○ 2 ○ 2 ○ 2		
共通(必修・選択)科目 計	10		10
【専門科目】 ○選択10単位以上 (健康福祉基礎科学) 健康福祉社会調査論 健康支援カウンセリング論 (健康情報実践学) 健康運動実践学特論 統計分析法 定性的研究法 データヘルス特論 政策評価論 地域課題研究 (社会福祉実践学) 社会保障政策論 地域包括ケアシステム論 地域包括ケア/地域共生社会論 ソーシャルワーク特論 子ども若者支援論 ソーシャルケア実践のマネジメントと研究 ソーシャルケア実践の評価と研究 保健医療福祉と臨床精神医学 (検査技術実践学) 病因病態検査学 生体情報評価学	○ 2 ○ 2 ○ 2	○ 2	
専門科目 計	6	2	8
【特別研究】 ●必修12単位 健康福祉科学特別研究Ⅰ 健康福祉科学特別研究Ⅱ		● 6 ● 6	
特別研究 計		12	12
合 計	16	2	30
期待される能力 健康情報学の実践能力を基礎に、福祉実践との連携を視野に入れながら、様々な健康行動過程の変容について、評価、教育の両面からエビデンスに基づいた企画立案や提案ができ、その管理運営やマネジメントにおいてリーダーシップを担うことができる。			
修了後の主な進路 保健医療福祉機関等において、指導的な立場で企画立案を実践する。			

※ ●○横の数字は単位数を表す。

○ 健康福祉科学専修の履修例

(2) 保健医療福祉の実践者をイメージ

履 修 科 目	履修年次・単位数		
	1年	2年	計
【共通必修科目】 ●必修2単位 IPW論(専門職連携実践論)	● 2		
【共通選択科目】 ○選択8単位以上 保健医療福祉概論 保健医療福祉研究法特論 国際保健医療福祉論 保健医療福祉とリハビリテーション 保健医療福祉学際英語 病院・介護・福祉施設運営管理論 高次脳機能と病態制御 予防医学特論 応用人体構造機能論 養護実践特論	○ 2 ○ 2 ○ 2 ○ 2		
共通(必修・選択)科目 計	10		10
【専門科目】 ○選択10単位以上 (健康福祉基礎科学) 健康福祉社会調査論 健康支援カウンセリング論 (健康情報実践学) 健康運動実践学特論 統計分析法 定性的研究法 データヘルス特論 政策評価論 地域課題研究 (社会福祉実践学) 社会保障政策論 地域包括ケアシステム論 地域包括ケア/地域共生社会論 ソーシャルワーク特論 子ども若者支援論 ソーシャルケア実践のマネジメントと研究 ソーシャルケア実践の評価と研究 保健医療福祉と臨床精神医学 (検査技術実践学) 病因病態検査学 生体情報評価学	○ 2 ○ 2 ○ 2 ○ 2		
専門科目 計	8		10
【特別研究】 ●必修12単位 健康福祉科学特別研究Ⅰ 健康福祉科学特別研究Ⅱ		● 6 ● 6	
特別研究 計		12	12
合 計	18	0	30
期待される能力 健康情報学の実践能力を基礎に、福祉実践との連携をめざしてその実践力を高めるとともに、多様な対象者理解や、援助技法の拡大を図り、その活動に関する管理運営やマネジメントにおいてリーダーシップを担うことができる。			
修了後の主な進路 保健医療福祉機関等において、指導的な立場で実践活動を行う。			

※ ●○横の数字は単位数を表す。

○ 健康福祉科学専修の履修例

(3) 保健医療福祉の実践者をイメージ (長期履修4年)

履 修 科 目	履修年次・単位数				
	1年	2年	3年	4年	計
【共通必修科目】 ●必修2単位 IPW論(専門職連携実践論)	● 2				
【共通選択科目】 ○選択8単位以上 保健医療福祉概論 保健医療福祉研究法特論 国際保健医療福祉論 保健医療福祉とリハビリテーション 保健医療福祉学際英語 病院・介護・福祉施設運営管理論 高次脳機能と病態制御 予防医科学特論 応用人体構造機能論 養護実践特論		○ 2 ○ 2 ○ 2	○ 2		
共通(必修・選択)科目 計	2	6	2		10
【専門科目】 ○選択10単位以上 (健康福祉基礎科学) 健康福祉社会調査論 健康支援カウンセリング論 (健康情報実践学) 定性的研究法 健康運動実践学特論 統計分析法 定性的研究法 データヘルス特論 政策評価論 地域課題研究 (社会福祉実践学) 社会保障政策論 地域包括ケアシステム論 地域包括ケア/地域共生社会論 ソーシャルワーク特論 子ども若者支援論 ソーシャルケア実践のマネジメントと研究 ソーシャルケア実践の評価と研究 保健医療福祉と臨床精神医学 (検査技術実践学) 病因病態検査学 生体情報評価学	○ 2 ○ 2	○ 2	○ 2		
専門科目 計	4	2	2		8
【特別研究】 ●必修12単位 健康福祉科学特別研究Ⅰ 健康福祉科学特別研究Ⅱ			● 6 ● 6		
特別研究 計			12		12
合 計	6	8	4	0	30
期待される能力 健康情報学の実践能力を基礎に、福祉実践との連携をめざしてその実践力を高めるとともに、多様な対象者理解や、援助技法の拡大を図り、その活動に関する管理運営やマネジメントにおいてリーダーシップを担うことができる。					
修了後の主な進路 保健医療福祉機関等において、指導的な立場で実践活動を行う。					

※ ●○横の数字は単位数を表す。

○ 健康福祉科学専修の履修例

(4) 保健医療福祉行政職員(社会福祉学分野)をイメージ

※認定社会福祉士取得指定科目

履 修 科 目	履修年次・単位数		
	1年	2年	計
【共通必修科目】 ●必修2単位 IPW論(専門職連携実践論)	● 2		
【共通選択科目】 ○選択8単位以上 保健医療福祉概論 保健医療福祉研究法特論 国際保健医療福祉論 保健医療福祉とリハビリテーション 保健医療福祉学際英語 病院・介護・福祉施設運営管理論 高次脳機能と病態制御 予防医学特論 応用人体構造機能論 養護実践特論 (他専修専門科目) 地域ケア支援論	○ 2 ○ 2 ○ 2 ○ 2		
共通(必修・選択)科目 計	10		10
【専門科目】 ○選択10単位以上 (健康福祉基礎科学) 健康福祉社会調査論 健康支援カウンセリング論 (健康情報実践学) 健康運動実践学特論 統計分析法 定性的研究法 データヘルス特論 政策評価論 地域課題研究 (社会福祉実践学) 社会保障政策論 地域包括ケアシステム論 ソーシャルワーク特論※ 子ども若者支援論 ソーシャルケア実践のマネジメントと研究※ ソーシャルケア実践の評価と研究※ 保健医療福祉と臨床精神医学 (検査技術実践学) 病因病態検査学 生体情報評価学	○ 2 ○ 2 ○ 2 ○ 1 ○ 1	○ 2	
専門科目 計	8	2	10
【特別研究】 ●必修12単位 健康福祉科学特別研究Ⅰ 健康福祉科学特別研究Ⅱ	● 6 ● 6		
特別研究 計	12		12
合 計	18	2	32
期待される能力 人々の生活支援や社会の諸課題の解決を可能とする社会福祉学を修得し、健康情報学との連携を視野に入れながら、今日的な保健医療福祉の課題、社会問題・生活課題を理解し、エビデンスに基づき実践やプログラムを評価し、企画立案、管理運営・マネジメントにおいてリーダーシップを発揮できる。			
修了後の主な進路 保健医療福祉機関等において、指導的な立場で企画立案を実践する。			

※ ●○横の数字は単位数を表す。

(5) 保健医療福祉の実践者(社会福祉学分野)をイメージ ※認定社会福祉士取得指定科目

※ ●○横の数字は単位数を表す。

○ 健康福祉科学専修の履修例

(6) 保健医療福祉の実践者(社会福祉学分野)をイメージ ※認定社会福祉士取得指定科目

履 修 科 目	履修年次・単位数				
	1年	2年	3年	4年	計
【共通必修科目】 ●必修2単位 IPW論(専門職連携実践論)	● 2				
【共通選択科目】 ○選択8単位以上 保健医療福祉概論 保健医療福祉研究法特論 国際保健医療福祉論 保健医療福祉とリハビリテーション 保健医療福祉学際英語 病院・介護・福祉施設運営管理論 高次脳機能と病態制御 予防医科学特論 応用人体構造機能論 養護実践特論		○ 2 ○ 2 ○ 2 ○ 2			
共通(必修・選択)科目 計	2	8	0		10
【専門科目】 ○選択10単位以上 (健康福祉基礎科学) 健康福祉社会調査論 健康支援カウンセリング論 (健康情報実践学) 健康運動実践学特論 統計分析法 定性的研究法 データヘルス特論 政策評価論 地域課題研究 (社会福祉実践学) 社会保障政策論 地域包括ケアシステム論 ソーシャルワーク特論※ 子ども若者支援論 ソーシャルケア実践のマネジメントと研究※ ソーシャルケア実践の評価と研究※ 保健医療福祉と臨床精神医学 (検査技術実践学) 病因病態検査学 生体情報評価学			○ 2		
専門科目 計	4	2	2		8
【特別研究】 ●必修12単位 健康福祉科学特別研究Ⅰ※ 健康福祉科学特別研究Ⅱ※					
		● 6 ● 6			
特別研究 計		12			12
合 計	6	10	2	0	30
期待される能力 人々の生活支援や社会の諸課題の解決を可能とする社会福祉学を修得し、健康情報学との連携を視野に入れながら、今日的な保健医療福祉の課題、社会問題・生活課題を理解し、エビデンスに基づき実践やプログラムを評価し、企画立案、管理運営・マネジメントにおいてリーダーシップを発揮できる。					
修了後の主な進路 保健医療福祉機関等において、指導的な立場で実践活動を行う。					

※ ●○横の数字は単位数を表す。

○ 健康福祉科学専修の履修例

(7) 臨床検査関連業務の実践者をイメージ

履 修 科 目	履修年次・単位数		
	1年	2年	計
【共通必修科目】 ●必修2単位 IPW論(専門職連携実践論)	● 2		
【共通選択科目】 ○選択8単位以上 保健医療福祉概論 保健医療福祉研究法特論 国際保健医療福祉論 保健医療福祉とリハビリテーション 保健医療福祉学際英語 病院・介護・福祉施設運営管理論 高次脳機能と病態制御 予防医科学特論 応用人体構造機能論 養護実践特論	○ 2 ○ 2 ○ 2		
共通(必修・選択)科目 計	10		10
【専門科目】 ○選択10単位以上 (健康福祉基礎科学) 健康福祉社会調査論 健康支援カウンセリング論 (健康情報実践学) 定性的研究法 健康運動実践学特論 統計分析法 定性的研究法 データヘルス特論 政策評価論 地域課題研究 (社会福祉実践学) 社会保障政策論 地域包括ケアシステム論 ソーシャルワーク特論 子ども若者支援論 ソーシャルケア実践のマネジメントと研究 ソーシャルケア実践の評価と研究 保健医療福祉と臨床精神医学 (検査技術実践学) 病因病態検査学 生体情報評価学	○ 2 ○ 2 ○ 2		
専門科目 計	8		8
【特別研究】 ●必修12単位 健康福祉科学特別研究Ⅰ 健康福祉科学特別研究Ⅱ		● 6 ● 6	
特別研究 計		12	12
合 計	18	0	30
期待される能力 検査技術の実践能力を基盤に最新の臨床検査の知識と技術を身につけ、さらに他職種との連携を視野に入れながら、高度な実践を展開することができる。保健・医療分野の施設や臨床検査関連施設の管理運営においてリーダーシップを担うことができる。			
修了後の主な進路 保健・医療分野の施設や臨床検査関連施設の管理運営においてリーダーシップを発揮できる指導者や管理者に従事する。また臨床検査関連の教育・研究活動に従事する。			

※ ●○横の数字は単位数を表す。

(8) 臨床検査関連業務の実践者をイメージ (長期履修4年)

※ ●○横の数字は単位数を表す。

○ 健康福祉科学専修の履修例

(9) 養護教諭専修免許取得履修モデル(在職年数3年未満) 24単位

※養護教諭専修免許状取得のための養護に関する科目

履 修 科 目	履修年次・単位数		
	1年	2年	計
【共通必修科目】 ●必修2単位 IPW論(専門職連携実践論)※	● 2		
【共通選択科目】 ○選択8単位以上 保健医療福祉概論※ 保健医療福祉研究法特論※ 国際保健医療福祉論 保健医療福祉とリハビリテーション※ 保健医療福祉学際英語 病院・介護・福祉施設運営管理論 高次脳機能と病態制御※ 予防医学特論※ 応用人体構造機能論※ 養護実践特論※ (他専修専門科目) ヘルスプロモーション論※ 地域ケア支援論※	○ 2 ○ 2 ○ 2 ○ 2 ○ 2 ○ 2 ○ 2	○ 2	
共通(必修・選択)科目 計	16	2	18
【専門科目】 ○選択10単位以上 (健康福祉基礎科学) 健康福祉社会調査論※ 健康支援カウンセリング論※ (健康情報実践学) 統計分析法※ 健康運動実践学特論※ 定性的研究法 データヘルス特論 政策評価論 地域課題研究 (社会福祉実践学) 地域包括ケア/地域共生社会論 ソーシャルワーク特論※ 子ども若者支援論※ ソーシャルケア実践のマネジメントと研究 ソーシャルケア実践の評価と研究 (検査技術実践学) 病因病態検査学 生体情報評価学	○ 2 ○ 2 ○ 2 ○ 2	○ 2 ○ 2	
専門科目 計	8	4	12
【特別研究】 ●必修12単位 健康福祉科学特別研究Ⅰ 健康福祉科学特別研究Ⅱ	● 6 ● 6		
特別研究 計	12		12
合 計	24	6	42
期待される能力 こどもを取り巻く現代的健康課題の背景には、様々な問題が複雑に絡み合っており、教育、福祉、心理、医療、保健、司法などの諸領域がそれぞれの専門性を発揮することが望まれる。企画力、判断力、対応力など自らの能力を開発・向上させるとともにそれら関係する人々と協働し、こどもたちの未来に責任をもつ専門職としての高度化をめざす。			
修了後の主な進路 各種学校の養護教諭として、指導的な立場で企画立案を実践する。			

※ ●○横の数字は単位数を表す。

(10) 養護教諭専修免許取得履修モデル(在職年数3年以上)

履修科目	履修年次・単位数		
	1年	2年	計
【共通必修科目】 ●必修2単位 IPW論(専門職連携実践論)※	● 2		
【共通選択科目】 ○選択8単位以上 保健医療福祉概論※ 保健医療福祉研究法特論※ 国際保健医療福祉論 保健医療福祉とリハビリテーション※ 保健医療福祉学際英語 病院・介護・福祉施設運営管理論 高次脳機能と病態制御※ 予防医科学特論※ 応用人体構造機能論※ 養護実践特論※	○ 2 ○ 2		
(他専修専門科目) ヘルスプロモーション論※ 地域ケア支援論※	○ 2 ○ 2		
共通(必修・選択)科目 計	10	0	10
【専門科目】 ○選択10単位以上 (健康福祉基礎科学) 健康福祉社会調査論※ 健康支援カウンセリング論※ (健康情報実践学) 統計分析法※ 健康運動実践学特論※ 定性的研究方法 データヘルステ論 政策評価論 地域課題研究 (社会福祉実践学) 地域包括ケア/地域共生社会論 ソーシャルワーク特論※ 子ども若者支援論※ ソーシャルケア実践のマネジメントと研究 ソーシャルケア実践の評価と研究 (検査技術実践学) 病因病態検査学 生体情報評価学	○ 2 ○ 2 ○ 2 ○ 2 ○ 2		
専門科目 計	10	2	12
【特別研究】 ●必修12単位 健康福祉科学特別研究Ⅰ 健康福祉科学特別研究Ⅱ	● 6 ● 6		
特別研究 計	12		12
合 計	20	2	34
期待される能力 こどもを取り巻く現代的健康課題の背景には、様々な問題が複雑に絡み合っており、教育、福祉、心理、医療、保健、司法などの諸領域がそれぞれの専門性を発揮することが望まれる。企画力、判断力、対応力など自らの能力を開発・向上させるとともにそれら関係する人々と協働し、こどもたちの未来に責任をもつ専門職としての高度化をめざす。			
修了後の主な進路 各種学校の養護教諭として、指導的な立場で企画立案を実践する。			

39

8. 特別研究の手引

(1) 修士論文作成・指導の流れ	4 1
(2) 修士論文作成・指導スケジュール	4 3
(3) 修士論文の研究指導教員及び研究指導補助教員に関する要領	4 5
(4) 修士論文審査に関する要領	5 0
(5) 修士論文・要旨の作成の手引	6 2

(1) 修士論文作成・指導の流れ

※ 時期は目安

(1) 指導教員・指導補助教員の決定 (1年次4月)

- ① 学生は、希望する指導教員を「指導教員希望(変更)届出書」(修士論文の研究指導教員及び研究指導補助教員に関する要領様式第1号)により研究科長を通じて学長に提出する。
- ② 指導教員は、学生などから意見を聴いた上で「指導補助教員推薦(変更)届出書」(修士論文の研究指導教員及び研究指導補助教員に関する要領様式第2号)を研究科長を通じて学長に提出する。
- ③ 学長は、指導教員1名及び指導補助教員1名以上を決定する。

(2) 履修指導及び研究課題の決定 (1年次4月～5月)

- ① 指導教員は、学生の研究に必要な授業科目などの履修計画を指導する。
 - ② 指導教員は、学生の希望する研究課題、指導教員の専門分野等を勘案して、学生と相談しながら研究課題を決定する。
 - ③ 学生は、「研究課題届出書」(修士論文審査に関する要領(以下「要領」という。)様式第1号)を指導教員の承認を経て、研究科長を通じて学長に提出する。
- ※ なお、看護学専修において専門看護師資格取得を目指す学生(以下「CNS 履修生」という。)は、「実践看護課題」を「研究課題」として提出する。

(3) 研究計画の立案及び指導 (1年次5月～9月)

- ① 学生は、決定した研究課題について研究計画を立案する。
 - ② 指導教員は、学生の研究計画の立案を指導する。
 - ③ 研究計画に関して、必要に応じ、倫理的側面から本学倫理委員会の審査を受ける。
- ※ なお、CNS 履修生は、各領域の「実践看護実習」を行いながら、文献検討を行い、具体的な課題を明確にし、事例研究、アクションリサーチなどの研究計画を立案するため、研究計画立案の時期は、1年次10月～3月となる。また、指導教員は各領域の「実践看護実習」において看護実践及び課題明確化のための指導を行い、課題に応じた研究計画立案を指導する。

(4) 研究の遂行及び指導 (1年次10月～)

- ① 学生は、1年次では主に文献調査、先行研究の整理、仮説の設定を行い、予備実験・調査等を実施する。2年次当初から本格的に研究活動を開始する。
 - ② 指導教員は、研究の進捗確認・文献抄読等のほか、研究遂行に関わる全般的な指導を行い、研究成果のまとめ方を指導する。
 - ③ 指導教員は、最終年次生を除く2年次以降の学生について、4月に学生の研究進行状況を確認し、進行状況に応じた指導を行う。
- ※ なお、CNS 履修生は、各領域の「実践看護実習」で見出した課題を中心に研究を遂行するため、時期は最終年次4月～10月となる。また、指導教員は、各領域の「実践看護実習」において看護実践の指導を行い、課題に応じ立案した「実践看護課題研究」において研究遂行に関わる全般的な指導及び研究成果のまとめ方の指導を行う。

(5) 研究デザイン発表 (1年次10月、2年次以降の4月・10月)

- ① 研究科長は、学生の研究に関するビジョンを確認するため、4月及び10月に特別研究発表会を開催し、学生はいずれかで研究デザイン発表を行う。
- ② 学生は、所定の期日までに「特別研究発表申込書」(要領様式第2号)、「博士前期課程特別研究発表会抄録集用抄録(研究デザイン発表用)」及び「発表用パワーポイントファイル」を提出した上で、特別研究発表会において研究計画を発表する。

※ 修士論文審査会は前期末修了のスケジュールもあります。
詳細は事務局までお問い合わせください。

(6) 主査及び副査の決定 (研究デザイン発表終了後)

- ① 学長は、研究デザイン発表が終わった学生に対し修士論文審査等に係る主査1名及び副査1名を決定する。
- ② 主査は、学生の指導教員・指導補助教員以外の指導教員の資格を有する者があたる。
- ③ 副査は、学生の指導教員・指導補助教員以外の指導教員又は指導補助教員の資格を有する者があたる。

(7) 中間発表 (2年次以降の4月・10月)

- ① 研究科長は、4月及び10月に特別研究発表会を開催し、学生はいずれかで研究の中間発表を行う。
- ② 学生は、所定の期日までに「特別研究発表申込書」(要領様式第2号)、「博士前期課程特別研究発表会抄録集用抄録(中間発表用)」及び「発表用パワーポイントファイル」を提出した上で、特別研究発表会で修士論文に関わる研究過程を発表する。
※当日の発表は、日本語で発表を行うこと。
- ③ 主査・副査は、学生の発表に対し質疑等を行う。

(8) 修士論文の作成及びその指導 (～最終年次)

- ① 学生は、中間発表での参加者からの意見を踏まえ、修士論文をまとめる。
- ② 指導教員は、修士論文の全体構成、資料・データの整理法、図・表の作成などの指導を行う。

(9) 修士論文の審査、修士論文審査会(口頭試問) (最終年次12月～2月)

- ① 主査は、学生及び副査の意見を聴いた上で、修士論文審査会(口頭試問)を開催する日を決定する。
※修士論文を英語で作成する場合、学生は主査・副査に対して、英語で作成することを審査会開催日が決定する前(12月中旬)までに連絡すること。
※修士論文について主査・副査への事前説明が必要な場合は、学生に対して伝えること。
- ② 修士論文の審査を申請しようとする学生は、所定の期日までに指導教員及び指導補助教員の承認を受けた上で、「修士論文審査申請書」(要領様式第3号)、修士論文、要旨を研究科長に提出する。
※要旨については原則日本語で作成すること。
- ③ 主査・副査は、要領別記「修士論文の審査方法について」に基づき修士論文の審査及び修士論文審査会(口頭試問)を行う。
※使用する修士論文以外の資料および発表については、原則日本語で行うこと。
- ④ 主査は、修士論文の審査及び修士論文審査会(口頭試問)の結果について「修士論文審査報告書」(要領様式4号)を作成し、学長に提出する。
- ⑤ 学生は、修士論文の審査会での指摘事項を踏まえて、必要に応じて修士論文を修正したのち、主査が求めた場合には提出をする。

(10) 合否判定、最終的な修士論文の提出 (最終年次3月)

- ① 学長は、主査及び副査による修士論文の審査結果、学生の単位取得状況及び在学期間により、博士前期修了の合否を判定する。
- ② 学生は、所定の期日までに最終的な修士論文1部、要旨1部を事務局に提出する。また、修士論文と要旨のPDFファイルを電子メールにより事務局に提出する。

(11) 博士前期課程の修了及び学位の授与 (最終年次3月)

- ① 学長は、学生の博士前期課程の修了を認定し、学位を授与する。
- ② 学位の授与は学位記を交付して行う。

(12) 修士論文の保存及び公開

- ① 審査に合格した論文は、情報センター等に保存し、公開する。

※ 修士論文審査会は前期末修了のスケジュールもあります。
詳細は事務局までお問い合わせください。

(2) 修士論文作成・指導スケジュール

① 一般（CNS履修生以外）

時期			学生	指導教員	主査・副査	学長又は研究科長
1 年次	前期	4月	入学 研究分野及び指導教員の希望			指導教員の決定
		5月		履修指導・研究課題の決定		研究課題の決定
		6月 ― 9月	研究計画の立案	研究計画の指導 ・研究の方法論 ・文献検索 ・セミナー		
	後期	10月	研究の遂行	研究指導		
		11月	・文献調査 ・先行研究の整理	・実験指導 ・セミナー（研究の進捗確認、文献抄読等）		
		12月				
		1月		研究計画の進行状況確認		研究計画の進行状況確認
		2月	・仮説の設定 ・予備実験、調査等			
		3月				
	長期履修制度を利用した場合の2年次～最終年次前年		4月 ― 3月	研究計画の進行状況確認		研究計画の進行状況確認
	最終 年次	前期	2026.4.中旬(土) 研究デザイン発表			特別研究発表会の開催
			・本研究の遂行 ・データ収集、解析	・実地指導		
				研究の進行状況確認		研究の進行状況確認
			・研究のまとめ	・研究のまとめ方指導		主査1名・副査1名の決定
		後期	2026.10.中旬(土) 中間発表			特別研究発表会の開催
				問題点の指導	質問・指摘・助言	
			修士論文の作成	論文作成指導		
			・追加実験、調査、分析 ・論文のまとめ	・全体構成 ・データ整理 ・資料、図表作成 等		
		2月	2027.1.下旬 修士論文の提出		2027.2.上旬～中旬 論文審査	2027.3.上旬 学長による合否判定
		3月	2027.3.中旬 修了(学位記の交付)			修了の認定(学位授与)

※特別研究発表会は年2回(4月、10月)開催し、研究デザイン発表・中間発表いずれも可能

② CNS履修生

時期			学生	指導教員	主査・副査	学長又は研究科長
1年次	前期	4月	入学			
			研究分野及び指導教員の希望			指導教員の決定
		5月	・文献検索	履修指導・研究課題の決定		研究課題の決定
		6月 9月	実践看護実習Ⅰの計画立案	指導		
	後期	10月	看護援助論等	実践看護実習Ⅰ	指導	
			・実践看護実施のための学習	・実習施設の選定、依頼、打合せ		
		11月	研究計画の作成	研究計画の指導		
		12月	・文献調査 ・先行研究の整理	・セミナー(文献抄読等) ・研究の方法論 ・事例分析方法指導		
		1月		研究の進行状況確認		研究の進行状況確認
		2月	・実習の振り返り、課題の明確化			
3月	実践看護実習Ⅱ・Ⅲの計画立案	指導				
長期履修制度を利用した場合の2年次～最終年次前年	4月 3月	実践看護課題研究	実践看護実習Ⅱ・Ⅲ	指導		
		研究の遂行	研究指導・進行状況確認		研究の進行状況確認	
		・文献調査 ・データ収集				
最終年次	前期	4月	2026.4.中旬(土) 研究デザイン発表			特別研究発表会の開催
		5月	実践看護課題研究	実践看護実習Ⅱ・Ⅲ	指導	
			※ 長期履修制度を利用せず2年で修了する場合			
			研究の遂行	研究指導・進行状況確認		研究の進行状況確認
			・文献調査 ・データ収集、分析	・分析方法指導		
	後期	6月				
		7月				
		8月				
		9月	・研究のまとめ	・研究のまとめ方指導		主査1名・副査1の決定
		10月	2026.10.中旬(土) 中間発表	問題点の指導	質問・指摘・助言	特別研究発表会の開催
			修士論文の作成	論文作成指導		
			・追加実験、調査、分析 ・論文のまとめ	・全体構成 ・データ整理 ・資料、図表作成 等		
		11月				
		12月				
		1月				
2月	2027.1.下旬 修士論文の提出		2027.2.上旬～中旬 論文審査	2027.3.上旬 学長による合否判定		
3月	2027.3.中旬 修了(学位記の交付)			修了の認定(学位授与)		

※特別研究発表会は年2回(4月、10月)開催し、研究デザイン発表・中間発表いずれも可能

(3) 修士論文の研究指導教員及び研究指導補助教員に関する要領

(趣旨)

第1条 この要領は、埼玉県立大学大学院学位規程（平成22年規程第118号）第16条に基づき、修士の学位論文（以下「修士論文」という。）の研究指導教員（以下「指導教員」という。）及び研究指導補助教員（以下「指導補助教員」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

(指導教員及び指導補助教員の資格に関する基準)

第2条 指導教員及び指導補助教員の資格に関する基準は別に定める。

2 指導教員及び指導補助教員は、本学の専任教員である者を充てる。

3 指導教員及び指導補助教員は、研究指導を引き継ぐ教員を異動又は退職するよりも前に決めておき、引き継がなければならない。

(指導教員及び指導補助教員の選任と決定)

第3条 学生は、教員と相談の上、指導教員希望（変更）届出書（様式第1号）を研究科長を通じて学長に届け出る。

2 指導教員は、学生及び指導補助教員として推薦しようとする者の意見を聴いた上で、指導補助教員推薦（変更）届出書（様式第2号）を研究科長を通じて学長に届け出る。

3 学長は、前2項の届出があった時は、研究指導に適する指導教員1名及び指導補助教員1名以上を決定し、指導教員及び指導補助教員通知書（様式第3号）により学生に通知する。

(指導教員及び指導補助教員の役割)

第4条 指導教員は、学生に対して修士論文の作成に関する全般的な指導を行う。

2 指導教員は、学生の研究に必要なとなる授業科目の履修計画の指導を行う。

3 指導教員は、学生の希望する研究課題及び指導環境等を勘案して、学生の研究課題の決定について指導を行う。

4 指導教員は、決定した研究課題について学生の研究計画の立案のための指導を行う。

5 指導教員は、学生が修業年限の最終年度に、修士論文の審査が受けられるよう指導を行う。

6 指導補助教員は、学生の修士論文の作成に関する指導を補助する。

(指導教員及び指導補助教員の変更)

第5条 指導教員及び指導補助教員は、次の各号に定める場合であって学長が認めたものに限り変更することができる。

一 指導教員又は指導補助教員が異動又は退職する場合

二 学生が指導教員又は指導補助教員の変更を希望する場合

三 その他指導教員又は指導補助教員を変更する必要があると研究科長が認めた場合

2 指導教員及び指導補助教員を変更する場合の手続は、第3条に準じて行うものとする。

3 指導教員及び指導補助教員変更の事務手続は、原則として新年度開始時期に行うものとする。ただし、学生は、学期期間内において、特別研究の進捗状況に合わせて博士前期課程担当教員から適宜必要な研究指導を受けることができる。

附 則

この要領は、平成 23 年 9 月 20 日から施行する。

附 則

この要領は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要領は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要領は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要領は、令和 5 年 5 月 1 日から施行する。

様式第 1 号

年 月 日

指導教員希望（変更）届出書 【博士前期課程】

埼玉県立大学学長 様

研究指導を希望する教員を次のとおり届け出ます。

専 修 名		学籍番号	
学生氏名		年度入学（長期 年）	
希望指導教員			

指導教員 _____

指導補助教員推薦（変更）届出書

【博士前期課程】

埼玉県立大学学長 様

下記の大学院生の指導補助教員を次のとおり推薦します。

専修名		学籍番号	
学生氏名		年度入学（長期 年）	
指導補助教員			
（変更の場合）	（変更前の教員名： ）		

指導教員 _____

指導教員及び指導補助教員通知書

【博士前期課程】

指導教員・指導補助教員を次のとおり通知します。

埼玉県立大学学長

指導を受ける学生	専修名		学籍番号	
	氏 名		年度入学(長期 年)	
指 導 教 員				
指導補助教員				

(4) 修士論文審査に関する要領

(趣旨)

第1条 この要領は、埼玉県立大学大学院学位規程（平成22年規程第118号）第16条に基づき、修士の学位論文（以下「修士論文」という。）の審査等に関し、必要な事項を定めるものとする。

(研究指導及び研究課題の決定)

第2条 学生は、研究指導教員（以下「指導教員」という。）の指導のもとで研究課題を決定し、研究課題届出書（様式第1号）を指導教員の承認を経て、研究科長を通じて学長に提出する。

(研究計画の立案及び倫理審査)

第3条 学生は、決定した研究課題について指導教員の指導のもとに研究計画を立案する。

2 研究計画は、必要に応じて倫理的側面から本学研究倫理委員会の審査を受ける。

(研究デザイン発表)

第4条 研究科長は、修士論文となる研究の実施計画を確認するため、研究デザイン発表の場として特別研究発表会を開催する。

2 研究デザイン発表を行おうとする学生は、特別研究発表申込書（様式第2号）を研究科長に提出しなければならない。

3 特別研究発表会（研究デザイン発表）の開催方法は、別記（その1）に定めるとおりとする。

(修士論文審査会の設置)

第5条 研究科長は、研究デザイン発表が終了した学生に対して、主審査員（以下「主査」という。）1名及び副審査員（以下「副査」という。）1名を審査員とする、修士論文審査会（以下「審査会」という。）を設置する。

2 主査及び副査の資格並びに選任方法については別に定める。

(中間発表)

第6条 研究科長は、学生の修士論文の作成過程において、研究の中間発表の場として特別研究発表会を開催する。

2 中間発表を行おうとする学生は、特別研究発表申込書（様式第2号）を研究科長に提出しなければならない。

3 審査会は、学生の中間発表に対して質疑等を行う。

4 特別研究発表会（中間発表）の開催方法は、別記（その2）に定めるとおりとする。

(修士論文審査の申請手続)

第7条 研究デザイン発表及び中間発表を経て修士論文の審査を申請しようとする学生は、指導教員及び研究指導補助教員（以下「指導補助教員」という。）の承認を経て、次の各号に掲げる書類を研究科長に提出しなければならない。

一 修士論文審査申請書（様式第3号）

二 修士論文

三 論文要旨

(修士論文の審査方法)

第8条 審査会は、修士論文の審査並びに修士論文の内容及び専門領域に関する口頭試問を行う。

2 審査会は、修士論文の審査にあたって必要があるときは、学生に修士論文に関する資料の提出又は必要な事項についての説明を求めることができる。

3 主査は、前二項の結果を踏まえ、修士論文審査報告書（様式第4号）を作成し、研究科長を通じて学長に提出する。

4 修士論文の審査方法の詳細は、別記（その3）に定めるとおりとする。

(修士論文の再審査)

第9条 修士論文の再審査（以下「再審査」という。）を受けることができる学生は、次の各号に掲げる要件をすべて満たす者とする。

- 一 所定の課程の単位をすべて修得した者
- 二 修士論文審査を終えた者で、修士論文審査が不合格となった者
- 三 再審査を受ける時点で、学則に定められた在学年限を超えていない者

2 再審査を受けようとする学生は、最初に修士論文審査を受けてから1年以内に、次の各号に掲げる書類を研究科長に提出しなければならない。

- 一 修士論文再審査申請書（様式第5号）
- 二 修士論文
- 三 論文要旨

3 研究科長は、前項の申請を行った学生に対して、主査1名及び副査1名を審査員とする、審査会を設置する。ただし、研究科長が必要と認めたときは、副査を増員することができる。

4 再審査は、第二項の書類を受理してから、1年以内に終了するものとする。

5 修士論文の再審査を受けようとする学生は、学則に定められた在学年限以内の期間、博士前期課程に籍を置くものとする。

6 再審査の方法は、修士論文の審査方法に準じるものとする。

(修士論文の保存及び公開)

第10条 審査に合格した修士論文は、情報センターに保存し、公開する。

2 修士論文の保存及び公開の詳細は別に定める。

附 則

この要領は、平成23年9月20日から施行する。

附 則

この要領は、平成24年9月10日から施行する。

附 則

この要領は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この要領は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この要領は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この要領は、平成27年9月1日から施行する。

附 則

この要領は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この要領は、平成31年4月1日から施行する。

附 則

この要領は、令和2年4月1日から施行する。

附 則

この要領は、令和3年4月1日から施行する。

附 則

この要領は、令和5年5月1日から施行する。

附 則

この要領は、令和6年4月1日から施行する。

研究課題届出書

【博士前期課程】

埼玉県立大学学長 様

次のとおり、研究課題を届け出ます。

専修 (該当箇所に チェック)	☐ 看護学専修 (☐ 一般 ・ CNS 課程 (☐ がん分野・ ☐ 精神分野・ ☐ 小児分野) ☐ リハビリテーション学専修 ☐ 健康福祉科学専修	
学籍番号		
学生氏名		年度入学 (長期 年)
指導教員		
研究課題		
指導教員 の意見等		

様式第2号

特別研究発表申込書
【博士前期課程】

研究科長 様

次のとおり、(研究デザイン発表 ・ 中間発表) ※いずれか○を付けるについて申し込みます。

学生氏名	(学籍番号)
指導教員	
研究課題名	
申込日	
(研究デザイン発表時のみいずれかに○を付けてください) 修士論文審査の際に提出する論文を現段階で英文にて作成する予定はありますか ・ 作成予定である ・ 作成の予定はない	
※今回の回答から変更があった際は、事務局(kyomu@spu.ac.jp)までご連絡ください	

修士論文審査申請書

研究科長 様

次のとおり、修士論文の審査を申請します。

専修名		学籍番号	
学生氏名		年度入学（長期 年）	
論文題目			

上記の者が修士論文の審査申請をすることを認めます。

指導教員 _____

指導補助教員 _____

指導補助教員 _____

修士論文審査報告書

埼玉県立大学学長 様

論文題名：
論文提出者： (学生氏名)

修士論文審査の内容	確認欄
1 課題：研究課題の着眼点、研究の意義付け、仮説が明確である	
2 手法：目的達成のための手法の理解、実証の手続き、倫理的配慮が適切である	
3 結果：研究結果の記載（文、式、図、表）が適切である	
4 議論：得られた結果の解釈が適切である	
5 引用：過去の関連する研究の評価や引用が適切である	
6 到達：得られた成果の科学的到達度が認められる (当該専門分野の学会発表水準)	
7 発展：研究の将来性、展望の広さ、独創性が認められる	

論文審査結果		
*審査の所見を記入する。		
論文審査 結果	☐ 合	☐ 修正確認不要 ☐ 修正確認を要する（ ☐ 全審査員 ☐ 主査一任）
	☐ 否	☐ 再審査とする
<u>主査</u> _____ <u>副査</u> _____		

修士論文再審査申請書

研究科長 様

次のとおり、修士論文の再審査を申請します。

学籍番号	
氏 名	
専修名	
年 月入学 ～ 年 月修了予定	
指導教員	
指導補助教員	
論文題名	

修士論文審査時の主査及び副査の氏名

主 査	
副 査	

博士前期課程特別研究発表会（研究デザイン発表）の開催方法について

1 目的

博士前期課程の学生が研究計画を公開することで、多くの研究者・教育者からの意見を幅広く受け、研究計画の修正及び研究の促進・展開並びに学术交流を図る。

2 対象者

大学院博士前期課程在学学生とする。なお、原則として１年次生は４月に実施する特別研究発表会（研究デザイン発表）において、発表することはできない。

3 発表内容

研究背景、研究方法（対象、方法、倫理配慮等）及び予定期間等を発表する。

4 実施期間

４月及び１０月に実施する。

5 発表・参加申込

指定された期日までに、特別研究発表申込書（様式第２号）を事務局担当者へ提出する。

6 事前準備

博士前期課程特別研究発表会抄録集を作成するため、事前に博士前期課程特別研究発表会抄録集用抄録（研究デザイン発表用）を提出する。記入様式は別紙のとおりとする。事務局指定の送付先に提出する。提出書類は Word 形式とし、ファイル名は、デザイン発表_学籍番号_氏名（記入例：デザイン発表_00000_埼玉花子）とする。発表で使用する PowerPoint ファイルは、ファイル名を Word と同名で作成し、事務局指定の送付先に提出する。

7 発表方法

発表方法は、PowerPoint によるプレゼンテーションとする。発表時間は発表 10 分、質疑 5 分の計 15 分とし、時間厳守とする。

スライドショーの送り操作は、操作ポインター等を使用して発表者が行うこととし、必要な場合は操作者を個人的に依頼する。

8 発表形式

発表に際しては指導教員から十分指導を受ける。PC 発表に際しては、以下のように準備する。

- （１）PowerPoint のスライドの枚数制限はないが、制限時間内に終了するように準備する。
- （２）スライド内の写真等は、jpeg などの汎用フォーマットで用意する。なお、動画やアニメーションを扱う場合には、事前に動作確認を行うこと。不明な点は、指導教員に相談する。会場で試写するときは、前日の会場設定時までに行う。

9 発表会当日

- （１）学生は、所定の時間までに会場に集合し、大学院教務委員会の教員から発表会での役割等の説明を受ける。
- （２）PC 発表者はプロジェクター等の操作手順やスライドの確認を行う。
- （３）司会は指導教員が行う。司会は研究タイトルと発表者氏名を点呼し、発表と質疑応答を時間内に納める。
- （４）タイムキーパーは最初の発表を最終演者が行い、その後は演者が次の演題のタイムキーパーを行う。タイムキーパーは 9 分、14 分経過ごとにベルで合図を行う。場合によって司会者へ時間配分を提示すること。

研究デザイン発表用 タイトル ○○○○○の研究 (MSP ゴシック フォント 12)
○○○○学 学籍番号○○○○ 氏名○○○○
指導教員・指導補助教員 ○○○○・○○○○
キーワード:○○○○○、○○○○○、○○○○

以下、見出し [○○○○] は MSP ゴシック・フォント 10、本文は MS 明朝・フォント 10 で記入する。

[研究背景]

**

[研究スケジュール]履修予定年限: ○年

**

記入例

2019 年

4 月 文献調査

5 月 研究倫理委員会審査提出・ヒアリング

7・8 月 調査

9 月 分析

[研究目的]

**

[研究方法]

1. 対象

**

[現段階の研究状況]

**

2. 方法

**

記入例 1

- 1) 実験装置
- 2) 実験の手順
- 3) 測定項目
- 4) 分析方法

記入例 2

- 1) 調査方法
- 2) 調査項目
- 3) 評価方法

3. 倫理的配慮

**

[参考文献・引用文献]

- 1)
- 2)
- 3)
- 4)
- 5)

博士前期課程特別研究発表会（中間発表）の開催方法について

1 目的

博士前期課程の学生が研究デザイン発表後に推進した研究の結果とその考察について公開し、多くの研究者・教育者からの意見を幅広く受け、研究内容の修正並びに学术交流を図る。

2 対象者

研究デザイン発表終了者とする。

3 発表内容

研究背景、研究方法（対象、方法、倫理配慮等）及び結果と考察の一部等を発表する。

4 実施期間

4月及び10月に実施する。

5 発表・参加申込

指定された期日までに、特別研究発表申込書（様式第2号）を事務局担当者へ提出する。

6 事前準備

博士前期課程特別研究発表会抄録集を作成するため、事前に博士前期課程特別研究発表会抄録集用抄録（中間発表用）を提出する。記入様式は別紙のとおりとする。事務局指定の送付先に提出する。提出書類は Word 形式とし、ファイル名は、中間発表、学籍番号、氏名（記入例：中間発表.00000.埼玉花子）とする。発表で使用する PowerPoint ファイルは、ファイル名を Word と同名で作成し、事務局指定の送付先に提出する。

7 発表方法

発表方法は、PowerPoint によるプレゼンテーションとする。発表時間は発表10分、質疑10分の計20分とし、時間厳守とする。

スライドショーの送り操作は、操作ポインター等を使用して発表者が行うこととし、必要な場合は操作者を個人的に依頼する。

8 発表形式

発表に際しては指導教員から十分指導を受ける。PC 発表に際しては、以下のように準備する。

- （1）PowerPoint のスライドの枚数制限はないが、制限時間内に終了するように準備する。
- （2）スライド内の写真等は、jpeg などの汎用フォーマットで用意する。なお、動画やアニメーションを扱う場合には、事前に動作確認を行うこと。不明な点は、指導教員に相談する。会場で試写するときは、前日の会場設定時までに行う。

9 発表会当日

- （1）学生は、所定の時間までに会場に集合し、大学院教務委員会の教員から発表会での役割等の説明を受ける。
- （2）PC 発表者はプロジェクター等の操作手順やスライドの確認を行う。
- （3）司会は指導教員が行う。司会は研究タイトルと発表者氏名を点呼し、発表と質疑応答を時間内に納める。
- （4）タイムキーパーは最初の発表を最終演者が行い、その後は演者が次の演題のタイムキーパーを行う。タイムキーパーは9分、19分経過ごとにベルで合図を行う。場合によって司会者へ時間配分を提示すること。

中間発表用 タイトル ○○○○○の研究 (MSP ゴシック フォント 12)
○○○○学 学籍番号○○○○ 氏名○○○○
指導教員・指導補助教員 ○○○○・○○○○
キーワード:○○○○○、○○○○○、○○○○○

以下、見出し [○○○○] は MSP ゴシック・フォント 10、本文は MS 明朝・フォント 10 で記入する。

[研究背景]

**

[研究結果]

**

[研究目的]

**

[研究方法]

1. 対象

**

2. 方法

**

[結果の解釈、考察]

**

記入例 1

- 1) 実験装置
- 2) 実験の手順
- 3) 測定項目
- 4) 分析方法

記入例 2

- 1) 調査方法
- 2) 調査項目
- 3) 評価方法

3. 倫理的配慮

**

[参考文献・引用文献]

- 1)
- 2)
- 3)
- 4)
- 5)

修士論文の審査方法について

１．修士論文の提出

学生は、指定された期日までに、修士論文審査申請書（様式第３号）、修士論文２部、論文要旨３部を事務局に提出する。

２．修士論文の審査方法

- （１）口頭試問は主査が主催し、学生（発表者）の１０分発表の後、質疑応答の時間を含め、合計４５分を目安に行う。
- （２）口頭試問は中間発表で指摘された質問に対する修正など、必要に応じて学生（発表者）による口頭説明を行うことができる。
- （３）口頭試問は修士論文審査報告書（様式第４号）の項目に基づいて行う。
- （４）修士論文の審査結果は主査がまとめ、修士の学位水準に達しているか、合否の判断を行う。
- （５）修士論文審査会は原則公開とする。

３．修士論文の審査内容

修士論文審査は次の（１）～（７）の項目において、保健医療福祉分野の学術の理解と活用ができており、研究により得られた知見を学会等に発信できる水準に達していることを主として審査を行う。

- （１）課題：研究課題の着眼点、研究の意義付けが明確である。
- （２）手法：目的達成のための手法の理解、実証の手続き、倫理的配慮が適切である。
- （３）結果：研究結果の記載（文、式、図、表）が適切である。
- （４）議論：得られた結果の解釈が適切である。
- （５）引用：過去の関連する研究の評価や引用が適切である。
- （６）到達：得られた成果の科学的到達度（当該専門分野の学会発表水準）が認められる。
- （７）発展：研究の将来性、展望の広さ、独創性が認められる。

４．修士論文審査会の日程

- （１）主査は、あらかじめ指定された期限までに、修士論文審査会の日程を事務局に報告する。
- （２）修士論文審査はあらかじめ指定された期間に行うものとする。
- （３）主査及び副査は、学生から事務局に提出のあった審査論文を修士論文審査会の１週間前までに事務局から受け取る。

(5) 修士論文・要旨の作成の手引

1. 提出手続

1) 提出期限 埼玉県立大学大学院学位規程第7条に定める修士論文は、所定の期日までに提出するものとする。

2) 提出方法 ①修士論文審査を申請するとき

学生は、事務局教務・入試担当に修士論文審査申請書、修士論文及び要旨のPDFファイルをWebClassにより提出すること。

※英語で作成する場合は、事前に主査及び副査へ連絡を行い、要旨については日本語で作成したものを提出すること。

②最終的な修士論文を提出するとき

学生は、事務局教務・入試担当にPDFファイルを電子メールにより提出すること。

※修士論文提出に際しては、指導教員の承諾を必ず得ること。

2. 修士論文及び論文要旨の作成要領

(1) 修士論文 修士論文の様式は、以下のとおりとする。

用 紙： A4判

製 本： ①修士論文審査を申請するとき

・ページ下部にページ番号を挿入する。

②最終的な修士論文を提出するとき

・ページ下部のページ番号は挿入しない。ただし、目次のページ番号は削除しない。（ページ下部のページ番号は事務局で振りなおします）

書体及び文字サイズ：

日本語：MS明朝体12ポイント、英数字：Century12ポイント

余 白： 左側4cm、右側2.5cm、上側3.5cm、下側3cm

文字数： 32字×25行（1頁800文字）

枚 数： 下限上限は設けない。ただし、文献研究などに関しては、概ね50枚程度とし、実験系の研究に関しては、個別的具体的に対応するものとする。

その他：

① 表紙の作成：

右図のとおり、論文題目（MS明朝体14ポイント、ボールド）、埼玉県立大学大学院、保健医療福祉学研究科、修士論文、2020年3月（前期末修了の場合は9月）、〇〇学専修、学籍番号、氏名（MS明朝体12ポイント）を記入する。

② 目次の作成：

ページ下部のページ番号に対応する目次を作成する。

③ 図表等の配置：

後付にするか、本文中に挿入するかはその論文の特性に合わせ任意に選択する。なお、図表、写真等は明瞭に印刷または複写すること。

④ 参考文献等

ア 文献は引用順に番号をつけ、本文中の引用箇所には1)、1,5,7)あるいは1-6)のように

肩番号をつけて記す。また、著者名を直接引用する場合に3名以上連名のときは、筆頭著者ならびに第2著者の2名のみを記載し、第3著者以降は"ら"あるいは"et al."とする。ただし、著者が3名の場合に限り、全著者を記載することとする。また文献のタイトルなどを用いる方法などがある。

例1) 田中り、Suzuki ら²⁻⁴⁾によれば.....

参考文献を入れる場合は、著者を姓のABC順に配列する。

例2) XX治療に関するシステマティックは.....

イ 文献の書き方は、原則として Uniform Requirements for Manuscripts

Submitted to Biomedical Journals に準拠するが、

学術誌名の省略は、学術誌の正式省略名または Index Medicus で認められたもの(例:日本公衆衛生雑誌→日本公衛誌、British Medical Journal→Br Med J)とし、略した場合もピリオドをつけない。数字は和文・英文ともに半角を用い、フォントは Century が望ましい。但し、カンマやドットに関しては、和文は全角、英文は半角とする。正式な省略方法が不明の場合は、フルスペックで記載する。

ア) 雑誌の場合

著者名(全員記入、洋雑誌の場合は first name、middle name は、イニシャルのみ(例:BrowsonAB).表題名.雑誌名(西暦年);巻(号):開始ページ-終了ページ

例1) Kawabata S, Ozone K, Minegishi Y, Oka Y, Terada H, Takasu C, Kojima T, Kano T, Kanemura N, Murata K. Chronic Ankle Joint Instability Induces Ankle Sensorimotor Dysfunction: A Controlled Laboratory Study. The American Journal of Sports Medicine (2024); 52(3):739-749.

例2) 寺田秀伸, 小島拓真, 高須千晴, 川端空, 二瓶孝太, 高柳清美, 金村尚彦, 村田健児. ラット前十字靭帯由来線維芽細胞の細胞遊走能は膝蓋下脂肪体との共培養により向上する. 基礎理学療法 (2024) ;30(1):76-77.

イ) 単行本の場合

著者名(全員記入).表題名.編集者名.書籍名,出版社,出版社所在地(西暦年):開始ページ-終了ページ

例1) 須永康代. 姿勢と動作の理解のために学ぶこと. 金村尚彦(編集), 濱口豊太(編集). リハビリテーションのための姿勢と動作. シービーアール, 東京 (2021) :1-9

例2) Hennink M, Hutter I, Bailey A. Qualitative research methods. 2nd ed. SAGE Publications Ltd, London (2020)

論文題目

埼玉県立大学大学院
保健医療福祉学研究科
修士論文

2020年3月(9月)

〇〇学専修 学籍番号
氏 名

ウ) 報告書等の場合

例) がん対策・厚生統計協会・国民衛生の動向・厚生指標
(2023/2024):p152-155

エ) インターネットからの引用の場合

著者名・“ページ名”・サイト名・更新日・入手先 URL,(閲覧日)・

令和 5 年版厚生労働白書—つながり・支え合いのある地域共生社会

例) 中央教育審議会・“新しい時代の初等中等教育の在り方について”・

文部科学省

2019 .https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1415877.htm , (参照 2024-02-24)

ウ 未公刊のデータを引用した場合は、本文中に未発表、私信、unpublished data、personal communication などと書き、引用文献や References には含めない。インターネットからの引用は、信頼のあるデータであることを留意する。

エ 以上の様式に合わせることが望ましいが、これによりがたいときは指導教員と相談すること。

(2) 論文要旨 論文要旨の様式は、以下のとおりとする。

用 紙: A 4 判

書体及び文字サイズ:

日本語: MS 明朝体 11 ポイント、英数字: Century 11 ポイント

最上段 5 行に論文題目 (14 ポイント)、埼玉県立大学大学院、
保健医療福祉学研究科、修士論文、指導教員、2020 年 3 月 (前
期末修了の場合は 9 月)、〇〇学専修、学籍番号、氏名を記入する。

余 白: 左側 4 cm、右側 2.5 cm、上側 3.5 cm、下側 3 cm

文字数: 40 字×30 行とし、本文は 1,000 文字以内とする。

9. 博士前期課程担当教員一覧

(1) 教授

職 位 ・ 氏 名 メールアドレス・(研究室)	科目区分 (専修)	担当授業科目の名称	研究指導に関わる 教員の研究テーマ	専門分野
教 授 相川 章子 aikawa-ayako@spu.ac.jp (南棟 330)	健康福祉科学	ソーシャルワーク特論 健康福祉科学特別研究(指導教員)	リハビリ、ピアサポート・ピアスタッフ、共同創造、インクルージョン、福祉教育に関する研究、当事者研究や研究への患者・市民参画(PPI)、質的研究	ピアサポート、ソーシャルワーク、精神保健福祉
教授 浅川 泰宏 asakawa-yasuhiro@spu.ac.jp (北棟 314)	健康福祉科学	定性的研究法 地域課題研究 健康福祉科学特別研究(指導教員)	文化資源・歴史遺産・聖地巡礼を活用した地域づくり・観光開発に関する研究 健康の文化・民俗に関する研究	文化人類学、民俗学、宗教学
教 授 有竹 清夏 aritake-sayaka@spu.ac.jp (南棟 329)	健康福祉科学	生体情報評価学 健康福祉科学特別研究(指導教員)	不眠症の睡眠状態誤認、睡眠と運動・体温・時間感覚・性差、女性の睡眠と健康に関する生理学的研究	生理検査学・睡眠学・時間生物学
教 授 飯岡 由紀子 iioka-yukiko@spu.ac.jp (北棟 330)	看護学	看護倫理 看護研究 がん看護学概論 がん病態生理学 がん看護学援助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ がん看護学演習Ⅰ・Ⅱ がん実践看護実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 看護学特別研究(指導教員) 実践看護課題研究(指導教員)	臨床看護学・がん看護学・ウイメンズヘルス・看護教育に関する研究	臨床看護学、がん看護学、ウイメンズヘルス、看護教育
教授 石崎 順子 ishizaki-junko@spu.ac.jp (教育研修センター棟408)	共通	養護実践特論	公衆衛生看護、ヘルスプロモーションに関する研究	地域看護学、公衆衛生看護学
	看護学	ヘルスプロモーション論 広域看護学特論 看護学特別研究(指導教員)		
	健康福祉科学	政策評価論 地域課題研究 健康福祉科学特別研究(指導教員)		
教授 井原 寛子 ihara-noriko@spu.ac.jp (南棟 411)	健康福祉科学	病因病態検査学 健康福祉科学特別研究(指導教員)	白血病幹細胞のシグナル伝達に関する研究、他	血液学、腫瘍学
教 授 今北 英高 imagita-hidetaka@spu.ac.jp (教育研修センター棟 407)	リハビリテーション学	内部機能障害治療学特論 リハビリテーション教育学Ⅱ リハビリテーション学特別研究(指導教員)	疾患モデルを用いた理学療法介入効果に関する検証 低換気とミトコンドリアの関連性 フアシアに関する基礎・臨床研究	基礎理学療法学 リハビリテーション科学
教 授 上原 美子 uehara-yoshiko@spu.ac.jp (教育研修センター棟 406)	共通	養護実践特論 国際保健医療福祉論	学校精神保健に関する研究、学校福祉に関する研究、養護教諭の教育に関する研究	学校精神保健、学校福祉
	看護学	ヘルスプロモーション論 広域看護学特論 看護学特別研究(指導教員)		
	リハビリ学	リハビリテーション教育学Ⅰ リハビリテーション学特別研究(指導補助教員)		
	健康福祉科学	健康福祉科学特別研究(指導教員)		
教 授 臼倉 京子 usukura-kyoko@spu.ac.jp (北棟430)	リハビリテーション学	臨床リハビリテーション研究法 生活環境支援系作業療法学特論 リハビリテーション学演習(生活環境支援系作業療法学)		日常生活活動学、生活環境学、地域リハビリテーション学

教 授 大木 いずみ oki-izumi@spu.ac.jp (南棟 324)	健康福祉科学	データヘルス特論	がんに関する疫学研究、がん検診、がん登録、がん対策に関する研究	公衆衛生学・疫学、がん対策、健康政策
		地域課題研究		
		健康福祉科学特別研究(指導教員)		
教 授 大塚 斉 otsuka-hitoshi@spu.ac.jp (教育研修センター棟 307)	看護学	小児保健医療福祉論		臨床心理学 家族心理学／家族療法 児童福祉(児童虐待)
	健康福祉科学	健康支援カウンセリング論		
		子ども若者支援論		
教 授 小澤 昭彦 ozawa-akihiko@spu.ac.jp (北棟 433)	共通	保健医療福祉とリハビリテーション	精神障害者の職業リハビリテーション 障害者雇用における合理的配慮	障害者福祉 職業リハビリテーション リハビリテーション心理学
	健康福祉科学	健康福祉科学特別研究(指導教員)		
教 授 越智 幸一 ochi-koichi@spu.ac.jp (教育研修センター棟 415)	健康福祉科学	健康福祉科学特別研究(指導補助教員)		発達心理学、教育心理学、臨床発達心理学
教 授 兼宗 美幸 kanemune-miyuki@spu.ac.jp (南棟 315)	看護学	リプロダクティブヘルス論	女性看護学、リプロダクティブ・ヘルス/ライツ、看護師の生涯学習/継続教育、ジェンダー、セクシュアリティ及び更年期のヘルスプロモーション	母性看護学、助産学
		看護学特別研究(指導教員)		
教 授 金村 尚彦 kanemura-naohiko@spu.ac.jp (北棟 416)	共通	保健医療福祉学際英語	バイオロジーやバイオメカニクスの視点による病態の理解と理学療法効果に関する検証	基礎理学療法学、運動器理学療法学、リハビリテーション科学
	リハビリテーション学	障害基礎解析学特論		
		リハビリテーション教育学Ⅱ リハビリテーション学特別研究(指導教員)		
教 授 北畠 義典 kitabatake-yoshinori@spu.ac.jp (南棟 410)	健康福祉科学	地域課題研究	運動(身体活動)疫学及び地域保健に関する研究	運動疫学、健康教育学、体力科学、公衆衛生学
		健康福祉科学特別研究(指導教員)		
教 授 國澤 尚子 kunisawa-naoko@spu.ac.jp (教育研修センター棟 404)	共通	IPW論(専門職連携実践論)①	看護技術および看護技術教育に関する研究、IPW・IPEに関する研究	基礎看護学、看護人間工学
	看護学	看護学教育論 看護学特別研究(指導教員)		
教 授 久保田 富夫 kubota-tomio@spu.ac.jp (南棟 301)	共通	保健医療福祉研究法特論		老年期作業療法学、時間生物学、睡眠学
	リハビリテーション学	生活環境支援系作業療法学特論 リハビリテーション学特別研究(指導補助教員)		
教 授 金野 倫子 konno-michiko@spu.ac.jp (北棟 422)	共通	IPW論(専門職連携実践論)② 高次脳機能と病態制御	精神疾患における精神症状・予後と睡眠の関連	老年精神医学、睡眠医学、精神病理学、精神科治療学、女性心身医学
	看護学	精神科治療論Ⅰ		
	看護学・健福	保健医療福祉と臨床精神医学		
	看護学 リハビリ学 健福科学	看護学 リハビリテーション学 健康福祉科学		
教授 齋藤 恵子 saito-keiko@spu.ac.jp (南棟 419)	共通	国際保健医療福祉論	ウィメンズヘルス、周産期に関する研究、国際看護・異文化看護に関する研究	母性看護学、助産学、国際看護学
	看護学	在宅看護学特論		
		リプロダクティブヘルス論 看護学特別研究(指導教員)		
教授 嶋末 恵子 shimasue@spu.ac.jp (北棟 443)	共通	IPW論(専門職連携実践論)①	生活場面面接、多領域におけるミクロ・メゾ・マクロのF-SOAPデータ利活用の研究	ソーシャルケア、生活支援、多職種協働実践、地域共生社会システム
		保健医療福祉研究法特論		
	健康福祉科学	ソーシャルケア実践の評価と研究 ソーシャルケア実践のマネジメントと研究 健康福祉科学特別研究(指導教員)		
教 授 鈴木 玲子 suzuki-reiko@spu.ac.jp (北棟 437)	看護学	基礎看護技術・看護工学	看護技術及び看護教育に関する研究	成人看護学、看護技術教育
		フィジカルアセスメント 看護学特別研究(指導教員)		

教 授 関 美雪 seki-miyuki@spu.ac.jp (北棟 316)	共通	養護実践特論	地域ケアシステム、行政・学校・産業 における保健活動、児童虐待、親子 保健に関する研究	地域看護学、公衆衛生看護 学
	看護学	地域ケア支援論 ヘルスプロモーション論 広域看護学特論 小児保健医療福祉論 看護学特別研究(指導教員)		
		健康福祉科学 政策評価論 地域課題研究 健康福祉科学特別研究(指導教員)		
教 授 善生 まり子 zensho-mariko@spu.ac.jp (北棟 317)	共通	IPW論(専門職連携実践論)① 保健医療福祉とリハビリテーション	インクルーシブ高齢者ケア、看護 チームの連携・協働、AIを応用した ヒューマンエラー未然防止などに 関連した定性研究	老年看護学、地域看護学
		看護学 地域ケア支援論 老年看護援助論 在宅看護学特論 看護学特別研究(指導教員)		
教 授 高橋 恵子 takahashi-keiko@spu.ac.jp (北棟 313)	看護学	看護理論 看護学教育論 看護学特別研究(指導教員)	People-Centered Care(市民主体の ケア)、市民と保健医療専門職との パートナーシップ、地域連携、市民 のヘルスリテラシーに関する研究	基礎看護学
教 授 竹島 太郎 takeshima-taro@spu.ac.jp (北棟 326)	共通	予防医科学特論	症状に関する研究、臨床診断に 関する研究、予防やリスクに関する 研究	臨床疫学、地域医療学
	看護学	フィジカルアセスメント		
	看護学 リハビリ学 健康福祉科学	看護学 リハビリテーション学 健康福祉科学 } 特別研究(指導教員)		
教 授 田口 孝行 taguchi-takayuki@spu.ac.jp (南棟 323)	共通	保健医療福祉概論	地域リハビリテーションにおける 理学療法効果と健康増進に 関する研究	地域リハビリテーション 理学療法学、 地域保健
	看護学	がん看護学演習Ⅱ		
	リハビリ テーション学	リハビリテーション教育学Ⅰ 生活環境支援系理学療法学特論 リハビリテーション学特別研究(指導教員)		
教 授 田中 健一 tanaka-ken-ichi@spu.ac.jp (北棟 320)	共通	高次脳機能と病態制御 保健医療福祉研究法特論 応用人体構造機能論 保健医療福祉学際英語	脳神経疾患及び口腔保健領域にお ける病態制御・薬物治療に関する研 究依存・嗜癖に関する研究	薬理学、生理学、 病態生化学、実験心理学
		看護学 臨床薬理学		
	看護学 リハビリ学 健康福祉科学	看護学 リハビリテーション学 健康福祉科学 } 特別研究(指導教員)		
教 授 筒井 孝子 tsutsui-takako@spu.ac.jp (北棟 322)	共通	病院・介護・福祉施設運営管理論	地域包括ケアシステム下の要介護 高齢者における生涯費用推計モデ ルの開発、自治体における保険者 機能評価、介護事故データベース の開発、介護提供時の画像を用い たる技術評価方法の開発	公衆衛生学、社会疫学、建 築学
	健康福祉科学	地域包括ケアシステム論 健康福祉科学特別研究(指導教員)		
		看護学 リハビリ学 } 特別研究(指導補助教員)		
教 授 常盤 文枝 tokiwa-f@spu.ac.jp (北棟 329)	看護学	看護理論 看護研究 成人看護援助論 看護学特別研究(指導教員) 実践看護課題研究(指導教員)	成人看護・成人看護教育に関する 研究	成人看護(慢性期看護) 看護教育

教授 中村 裕美 nakamura-hiromi@spu.ac.jp (北棟 336)	共通	保健医療福祉学際英語 IPW論(専門職連携実践論)②	ライフサイクルに応じた地域在住者の生活の質とメンタルヘルスの促進, 及び社会参加支援プログラムの開発に関する研究	社会参加、メンタルヘルス、就労支援、生活の質、作業療法理論
	リハビリテーション学	脳機能作業療法学特論 臨床リハビリテーション研究法 リハビリテーション教育学Ⅱ リハビリテーション学特別研究(指導教員)		
教授 滑川 道人 namekawa-michito@spu.ac.jp (南棟 424)	共通	IPW論(専門職連携実践論)②	神経変性疾患の分子遺伝学的研究	臨床神経学、分子遺伝学
	看護学	フィジカルアセスメント 病態生理学		
	看護学 リハビリ学 健康福祉科学	看護学 リハビリテーション学 健康福祉科学 } 特別研究(指導教員)		
教授 西原 賢 nishihara-ken@spu.ac.jp (北棟 420)	リハビリテーション学	運動解析学特論 リハビリテーション教育学Ⅰ リハビリテーション学特別研究(指導教員)	身体運動機能の解析法に関する研究	神経系理学療法学 電気生理運動学
教授 延原 弘章 nobuhara-hiroaki@spu.ac.jp (南棟 401)	共通	保健医療福祉研究法特論	公的な保健福祉統計資料を利用したデータ分析	公衆衛生学、疫学
	健康福祉科学	統計分析法 地域課題研究 健康福祉科学特別研究(指導教員)		
教授 濱口 豊太 hamaguchi-toyohiro@spu.ac.jp (北棟 421)	リハビリテーション学	臨床リハビリテーション研究法 リハビリテーション教育学Ⅰ 機能適用支援系作業療法学特論 行動神経作業療法学特論 リハビリテーション学特別研究(指導教員)	心身相関の作業療法学, 運動機能解析, 情動制御支援のためのAIアプリケーションとロボット開発	リハビリテーション、心身医学、行動医学
教授 林 恵津子 hayashi-etsuko@spu.ac.jp (南棟 307)	健康福祉科学	子ども若者支援論 健康福祉科学特別研究(指導補助教員)		障害児保育、特別支援教育、障害児生理心理学
教授 廣渡 祐史 hirowatari-yuji@spu.ac.jp (南棟 414)	健康福祉科学	生体情報評価学 健康福祉科学特別研究(指導教員)	動脈硬化性疾患、生活習慣病に関する検査マーカー及び検査法の研究	生化学、分析化学、臨床化学

教授 村井 美代 murai-miyo@spu.ac.jp (南棟 166)	健康福祉科学	病因病態検査学 健康福祉科学特別研究(指導教員)	AMR対策(MRSAなど薬剤耐性菌の疫学調査) 細菌のDNA型別(型別法の検討、新規型別法の開発)	細菌学、細菌遺伝学
教授 森 正樹 mori-masaki@spu.ac.jp (南棟 408)	共通	養護実践特論		臨床発達心理学、特別支援教育、障害児保育
	看護学	コンサルテーション論		
	リハビリテーション学	リハビリテーション教育学Ⅰ		
	看護学 リハビリ学 健康福祉科学	看護学 リハビリテーション学 健康福祉科学		
教授 森田 牧子 morita-makiko@spu.ac.jp (南棟 316)	看護学	看護倫理 コンサルテーション論 精神科治療論Ⅰ・Ⅱ 精神看護制度論 地域精神看護論 精神看護学演習 精神実践看護実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 精神看護援助法 看護学特別研究(指導教員) 実践看護課題研究(指導教員)	精神看護、精神科訪問看護、障がい者虐待、自殺やメンタルヘルス関連、依存症に関する研究	精神看護学
教授 山口 乃生子 yamaguchi-nobuko@spu.ac.jp (教育研修センター棟 304)	共通	国際保健医療福祉論	成人看護学、国際保健学、感染症看護に関する研究	成人看護学、国際保健学、感染症看護
		保健医療福祉学際英語		
	看護学	看護理論 成人看護援助論 看護学特別研究(指導教員)		
教授 山崎 弘嗣 yamasaki-hiroshi@spu.ac.jp (南棟 405)	リハビリテーション学	運動解析学特論 リハビリテーション教育学Ⅱ リハビリテーション学特別研究(指導教員)	協調運動の生成原理、運動行動における脆弱化の予知予防、理学療法技術の検証	運動学
教授 横山 由美 yokoyama-yumi@spu.ac.jp (北棟 332)	看護学	小児看護学特論 小児保健医療福祉論 小児健康生活論 小児病態・治療学 小児看護学演習 小児実践看護実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 小児看護援助法Ⅰ・Ⅱ 看護学特別研究(指導教員) 実践看護課題研究(指導教員)	小児看護に関する研究、地域で生活する障害を持つ子ども・医療的ケア児に関する研究	小児看護学
教授 吉田 俊之 yoshida-toshiyuki@spu.ac.jp (南棟 428)	リハビリテーション学	障害予防学特論		経営学・保健学
教授 若林 チヒロ wakabayashi@spu.ac.jp (北棟 419)	健康福祉科学	健康福祉社会調査論 地域課題研究 健康福祉科学特別研究(指導教員)	健康領域、福祉領域の生活研究	生活科学、健康社会学
教授 渡邊 千登世 watanabe-chitose@spu.ac.jp (北棟 331)	看護学	看護管理システム論 看護学教育論 看護学特別研究(指導補助教員)		看護管理学・看護情報学・創傷・オストミー・失禁管理

(2) 准教授

職 位 ・ 氏 名 メールアドレス・(研究室)	科目区分 (専修)	担当授業科目の名称	研究指導に関わる 教員の研究テーマ	専門分野
准教授 青森 広美 aomori-hiromi@spu.ac.jp (南棟 312)	看護学	看護管理システム論		基礎看護学
准教授 秋山 恭子 akiyama-kyoko@spu.ac.jp (南棟 302)	リハビリテ ーション学	障害予防学特論		口腔保健学、歯科衛生学
准教授 浅井 宏美 asai-hiromi@spu.ac.jp (南棟 420)	看護学	看護倫理 リプロダクティブヘルス論 看護学特別研究(指導補助教員)		母性看護学、助産学
准教授 安藤 克己 ando-k@spu.ac.jp (南棟 429)	健康福 祉科学	病因病態検査学 健康福祉科学特別研究(指導補助教員)		基礎医学 (発生学、組織細胞化学、病 理学、実験動物学)
准教授 五十嵐 淳子 igarashi-junko@spu.ac.jp (南棟 314)	共通	養護実践特論		教育学
	看護学	看護学教育論 小児保健医療福祉論		
	リハビリテ ーション学	リハビリテーション教育学Ⅰ		
准教授 伊藤 さやか ito-sayaka@spu.ac.jp (南棟 331)	健康福 祉科学	病因病態検査学 健康福祉科学特別研究(指導補助教員)		免疫学、免疫検査学
准教授 井上 和久 inoue-kazuhiisa@spu.ac.jp (南棟 404)	リハビリテ ーション学	リハビリテーション教育学Ⅱ 生活環境支援系理学療法学特論 リハビリテーション学特別研究(指導教員)	生活環境支援および健康増進効果 (予防)に関する研究	基礎理学療法、神経理学療法、運動器理学療法、生活環境理学療法、教育・管理理学療法
准教授 上原 栄一郎 uehara-eiichiro@spu.ac.jp (北棟442)	共通	保健医療福祉とリハビリテーション		精神機能作業療法学、精神 科デイケア、職業関連技術 学
	リハビリテ ーション学	臨床リハビリテーション研究法 生活環境支援系作業療法学特論 リハビリテーション教育学Ⅰ 脳機能作業療法学特論		
准教授 江口 のぞみ nozomi-eguchi@spu.ac.jp (南棟 417)	看護学	臨床薬理学 精神科治療論Ⅰ 精神科治療論Ⅱ 精神看護制度論 地域精神看護論 精神看護援助法 精神看護学演習 精神実践看護実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 看護学特別研究(指導補助教員) 実践看護課題研究(指導補助教員)		精神看護学
准教授 大場 良子 ohba-ryoko@spu.ac.jp (北棟 334)	看護学	がん看護学概論 がん看護学援助論Ⅱ・Ⅲ 看護学演習(がん看護学) がん看護学演習Ⅰ・Ⅱ がん実践看護実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 看護学特別研究(指導補助教員) 実践看護課題研究(指導補助教員)		成人看護学、がん看護学
准教授 岡 桃子 oka-momoko@spu.ac.jp (南棟321)	健康福 祉科学	子ども若者支援論		子ども家庭福祉

職 位・氏 名 メールアドレス・(研究室)	科目区分 (専修)	担当授業科目の名称	研究指導に関わる 教員の研究テーマ	専門分野
准教授 岡田 茂治 okada-shigeharu@spu.ac.jp (南棟425)	健康福祉科学	生体情報評価学 健康福祉科学特別研究(指導補助教員)		一般臨床検査学・臨床生理検査学・統計学
准教授 小栢 進也 ogaya-shinya@spu.ac.jp (北棟341)	リハビリテーション学	障害予防学特論 リハビリテーション教育学Ⅰ リハビリテーション教育学Ⅱ リハビリテーション学特別研究(指導教員)	変形性関節症における運動療法の効果検証、運動器障害・スポーツ動作のバイオメカニクス・シミュレーション研究	臨床バイオメカニクス、リハビリテーション工学、運動療法学
准教授 小川 孔美 ogawa-kumi@spu.ac.jp (北棟 325)	共通	IPW論(専門職連携実践論)①		高齢者福祉、介護福祉、専門職連携教育
准教授 岸井 こずゑ kishii-kozue@spu.ac.jp (南棟151)	健康福祉科学	病因病態検査学 健康福祉科学特別研究(指導教員)	薬剤性菌の分子疫学、およびメカニズムに関する研究 他	微生物学・臨床微生物学・感染制御学
准教授 木戸 聡史 kido-satoshi@spu.ac.jp (北棟 335)	共通	IPW論(専門職連携実践論)②	呼吸器・循環器・全身持久力に関する臨床研究および人を対象にした基礎研究、福祉機器開発研究	内部障害理学療法学、運動生理学、リハビリテーション工学
	リハビリテーション学	リハビリテーション教育学Ⅱ 内部機能障害治療学特論 リハビリテーション学特別研究(指導教員)		
准教授 久保田 章仁 kubota-akihito@spu.ac.jp (南棟 423)	共通	保健医療福祉概論		地域リハビリテーション
	リハビリテーション学	障害予防学特論 リハビリテーション学特別研究(指導補助教員)		
准教授 久保田 亮 kubota-ryo@spu.ac.jp (南棟 427)	健康福祉科学	生体情報評価学 健康福祉科学特別研究(指導教員)	予防医学検査、食品検査に関する研究	公衆衛生学、予防医学、健康食品学
准教授 栗延 孟 kurinobu-takeshi@spu.ac.jp (教育研修センター棟 405)	健康福祉科学	健康福祉科学特別研究(指導補助教員)		高齢者福祉、介護福祉、心理学
准教授 小池 祐士 koike-yuji@spu.ac.jp (北棟 435)	リハビリテーション学	臨床リハビリテーション研究法 リハビリテーション教育学Ⅰ リハビリテーション教育学Ⅱ 機能適用支援系作業療法学特論 生活環境支援系作業療法学特論 リハビリテーション学特別研究(指導補助教員)		身体障害作業療法学・生活環境技術学・排泄動作
准教授 国分 貴徳 kokubun-takanori@spu.ac.jp (北棟 338)	共通	保健医療福祉研究法特論	メカニカルストレスが生体に及ぼす影響の解明～バイオメカニクスの手法および実験動物を用いた基礎的研究～	基礎理学療法学、運動器理学療法学、バイオメカニクス
	リハビリテーション学	障害基礎解析学特論 臨床リハビリテーション研究法 リハビリテーション教育学Ⅱ リハビリテーション学特別研究(指導教員)		
准教授 相良 翔 sagara-sho@spu.ac.jp (教育研修センター棟 308)	健康福祉科学	子ども若者支援論 ソーシャルワーク特論 健康福祉科学特別研究(指導補助教員)		犯罪社会学、福祉社会学、司法福祉

職 位・氏 名 メールアドレス・(研究室)	科目区分 (専修)	担当授業科目の名称	研究指導に関わる 教員の研究テーマ	専門分野
准教授 櫻井 育穂 sakurai-ikuho@spu.ac.jp (教育研修センター棟 301)	看護学	看護倫理 小児健康生活論 小児病態・治療学 小児看護学演習 小児看護援助法Ⅱ 地域ケア支援論 小児実践看護実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 看護学特別研究(指導教員) 実践看護課題研究(指導教員)	小児慢性疾患患者の成人移行期支援における患者家族中心の教育プログラムの開発・評価 成人先天性心疾患患者と家族の移行期支援について	小児看護学
准教授 佐藤 玲子 sato-reiko@spu.ac.jp (教育研修センター棟 305)	共通	養護実践特論		公衆衛生看護学
准教授 澤田 宇多子 sawada-utako@spu.ac.jp (南棟 402)	看護学	精神科治療論Ⅰ・Ⅱ 精神看護制度論 地域精神看護論 精神看護学演習 精神実践看護実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 精神看護援助法 看護学特別研究(指導補助教員) 実践看護課題研究(指導補助教員)		精神看護学
准教授 篠原 純史 shinohara-atsushi@spu.ac.jp (教育研修センター棟 401)	健康福祉科学	健康福祉科学特別研究(指導補助教員)		医療ソーシャルワーク
准教授 柴田 亜希 shibata-aki@spu.ac.jp (北棟 312)	看護学	ヘルスプロモーション論 広域看護学特論 看護学特別研究(指導補助教員)		地域看護学・公衆衛生看護学
	健康福祉科学	データヘルス特論 政策評価論 地域課題研究 健康福祉科学特別研究(指導補助教員)		
准教授 白岩 祐子 shiraiwa-yuko@spu.ac.jp (南棟 409)	健康福祉科学	健康福祉社会調査論 地域課題研究 健康福祉科学特別研究(指導教員)	対人関係(死別)、認知バイアス、行動インサイト(ナッジ)、犯罪被害者遺族のニーズ、被害者法制の効果検証、死後観・他界観、死による肯定バイアス	社会心理学、被害者学、死生学・宗教心理学
准教授 新村 洋未 shinmura-hiromi@spu.ac.jp (教育研修センター棟 403)	看護学	基礎看護技術・看護工学 フィジカルアセスメント 看護研究 看護学特別研究(指導補助教員)		基礎看護学
准教授 鈴木 貴子 suzuki-takako@spu.ac.jp (北棟 339)	リハビリテーション学	脳機能作業療法学特論		身体機能作業療法学

職 位・氏 名 メールアドレス・(研究室)	科目区分 (専修)	担当授業科目の名称	研究指導に関わる 教員の研究テーマ	専門分野
准教授 須永 康代 sunaga-yasuyo@spu.ac.jp (北棟 417)	リハビリテ ーション学	障害予防学特論 リハビリテーション教育学Ⅱ リハビリテーション学特別研究(指導教員)	月経周期や妊娠・出産に関連したバ イオメカニクスの変化と障害予防、 骨盤底機能 等に関連する研究	生体運動学、ウィメンズヘル ス理学療法学
准教授 高崎 博司 takasaki-hiroshi@spu.ac.jp (北棟 439)	共通	IPW論(専門職連携実践論)②	再発予防、運動制御、疼痛、患者教 育、運動療法、臨床推論、(テーピン グを含む) 徒手治療手技に関する 臨床研究やヘルスアウトカムリサー チなど	運動器理学療法
	リハビリテ ーション学	リハビリテーション教育学Ⅰ 運動器障害治療学特論 リハビリテーション学特別研究(指導教員)		
准教授 高島 恭子 takashima-kyoko@spu.ac.jp (北棟 425)	共通	国際保健医療福祉論		障害者福祉、ソーシャルワー ク
	健康福 祉科学	ソーシャルワーク特論 健康福祉科学特別研究(指導補助教員)		
准教授 高橋 綾 aya-t@spu.ac.jp (南棟 313)	看護学	看護学教育論		基礎看護学
准教授 高柳 雅朗 takayanagi- masaaki@spu.ac.jp (北棟321)	共通	応用人体構造機能論 保健医療福祉演習(応用人体構造機能Ⅰ・Ⅱ)	聴覚伝導路の神経解剖学的研究 解剖学教育に関する研究	解剖学、神経解剖学
	看護学	看護学特別研究(指導教員)		
	リハビリテ ーション学	中枢神経系の組織学的研究法		
	リハビリ学 健康福祉科学	リハビリテーション学 健康福祉科学 } 特別研究(指導補助教員)		
准教授 武田 美津代 m-takeda@spu.ac.jp (南棟 309)	看護学	病態生理学 在宅看護学特論 がん看護学演習Ⅱ 看護学特別研究(指導補助教員)		基礎看護学
准教授 田口 賢太郎 taguchi-kentaro@spu.ac.jp (南棟 407)	共通	養護実践特論		教育哲学・保育学・子ども学
	健康福 祉科学	子ども若者支援論		
准教授 田村 佳士枝 tamura-kajie@spu.ac.jp (北棟 327)	看護学	看護理論 臨床薬理学 小児看護学特論		小児看護学
准教授 辻 玲子 tsuji-reiko@spu.ac.jp (北棟 319)	看護学	臨床薬理学 老年看護援助論 地域ケア支援論 在宅看護学特論		老年看護学
准教授 辻本 健 tsujimoto-ken@spu.ac.jp (※研究室は後に決定)	看護学	小児看護学特論 小児健康生活論 看護学特別研究(指導補助教員) 実践看護課題研究(指導補助教員)		小児看護学
准教授 津野 陽子 tsuno-yoko@spu.ac.jp (南棟 320)	健康福 祉科学	データヘルス特論 地域課題研究 健康福祉科学特別研究(指導教員)	健康経営に基づく保健・医療情報を 活用した健康課題の可視化に関す る研究、健康経営フレームワークに 関する研究	健康経営、データヘルス、産 業保健
准教授 中村 潤子 nakamura-junko@spu.ac.jp (南棟 325)	健康福 祉科学	生体情報評価学 健康福祉科学特別研究(指導教員)	固形臓器移植を対象としたHLA関 連検査の網羅的解析、抗血小板抗 体および抗顆粒球抗体検出法に関 する研究	輸血学、輸血検査学、移植 検査学

職 位・氏 名 メールアドレス・(研究室)	科目区分 (専修)	担当授業科目の名称	研究指導に関わる 教員の研究テーマ	専門分野
准教授 保科 寧子 hoshina-yasuko@spu.ac.jp (南棟 319)	健康福祉科学	ソーシャルワーク特論 健康福祉科学特別研究(指導教員)	ボランティア・社会参加に関する研究	高齢者福祉、地域福祉
准教授 本間 三恵子 honma-mieko@spu.ac.jp (北棟 431)	共通	保健医療福祉研究法特論		医療コミュニケーション学、 社会学(医療文化、医療化論)
	健康福祉科学	定性的研究法 地域課題研究 健康福祉科学特別研究(指導補助教員)		
准教授 牧野 由理 makino-yuri@spu.ac.jp (南棟 322)	健康福祉科学	健康福祉科学特別研究(指導補助教員)		芸術学、美術教育学
准教授 丸山 優 maruyama-yuu@spu.ac.jp (南棟 303)	共通	保健医療福祉研究法特論	老年看護に関する研究、医療機関で治療を受ける高齢者、看護実践に関する研究、施設等で療養生活を送る高齢者、看護実践に関する研究	老年看護学
	看護学	病態生理学 老年看護援助論 在宅看護学特論 看護学特別研究(指導教員)		
准教授 宮部 明美 miyabe-akemi@spu.ac.jp (南棟 305)	看護学	フィジカルアセスメント 成人看護援助論 看護学特別研究(指導補助教員)		成人看護学
准教授 村田 健児 murata-kenji@spu.ac.jp (南棟 304)	リハビリテーション学	障害基礎解析学特論 リハビリテーション教育学Ⅰ リハビリテーション学特別研究(指導教員)	生体外環境及び生体内環境の変化とリハビリテーションに関する研究(メカニカルストレスや性差による結合組織に対する影響)	骨関節疾患の病態解明に関する研究
准教授 森 美紀 mori-miki@spu.ac.jp (教育研修センター棟 414)	看護学	リプロダクティブヘルス論 看護学特別研究(指導補助教員)		母性看護学、助産学
准教授 八十島 崇 yasojima-takashi@spu.ac.jp (教育研修センター棟 306)	共通	養護実践特論	スポーツ動作に関する研究 スポーツと関わる筋機能に関する研究	身体運動学、 トレーニング科学
	健康福祉科学	健康運動実践学特論 リハビリテーション教育学Ⅰ 健康福祉科学特別研究(指導教員)		
准教授 矢野 哲也 yano-tetsuya@spu.ac.jp (南棟 426)	看護学	がん病態生理学	病理組織技術に関する研究 細胞診検査における電子顕微鏡学的研究	病理検査学、細胞診断学
	健康福祉科学	病因病態検査学 健康福祉科学特別研究(指導教員)		
准教授 山岸 直子 yamagishi-naoko@spu.ac.jp (南棟 311)	看護学	フィジカルアセスメント 成人看護援助論 看護学特別研究(指導補助教員)		成人看護学(慢性看護)
准教授 山田 恵子 yamada-keiko@spu.ac.jp (北棟 418)	共通	保健医療福祉とリハビリテーション 応用人体構造機能論	ロコモティブシンドロームに関する研究 身体機能に関する疫学研究	整形外科、運動疫学、医療コミュニケーション学、医療系社会学
	看護学	フィジカルアセスメント		
	看護学 リハビリ学 健康福祉科学	看護学 リハビリテーション学 健康福祉科学 } 特別研究(指導教員)		
准教授 山本 英子 yamamoto-eiko@spu.ac.jp (教育研修センター棟 412)	看護学	リプロダクティブヘルス論 看護学特別研究(指導補助教員)		母性看護学、助産学

(3) 助教

職 位 ・ 氏 名 メールアドレス・(研究室)	科目区分 (専修)	担当授業科目の名称	研究指導に関わる 教員の研究テーマ	専門分野
助 教 伊草 綾香 igusa-ayaka@spu.ac.jp (北棟 109)	看護学	広域看護学特論 ヘルスプロモーション論		地域看護学・公衆衛生看護学
助教 久保田 圭祐 kubota-keisuke@spu.ac.jp (北棟 333)	リハビリテーション学	障害予防学特論		基礎理学療法学, 運動器理学療法学, リハビリテーション工学
助 教 小泉 浩平 koizumi-kohei@spu.ac.jp (北棟 126)	リハビリテーション学	機能適用支援系作業療法学特論 リハビリテーション学特別研究(指導教員)	心身を基盤としたがんリハビリテーションに関する研究、手指運動解析および支援技術の検証	心身医学、リハビリテーション科学
助教 金 さやか kon-sayaka@spu.ac.jp (北棟 108)	看護学	看護学特別研究(指導補助教員)		成人看護学
助 教 五味 葉子 gomi-yoko@spu.ac.jp (南棟 145)	健康福祉科学	子ども若者支援論 健康福祉科学特別研究(指導補助教員)		健康・子どもの健康福祉学・幼児体育
助 教 清水 新悟 shimizu-shingo@spu.ac.jp (北棟 123)	リハビリテーション学	生活環境支援系理学療法学特論 リハビリテーション学特別研究(指導教員)	アライメント補正に関する研究(評価法や障害予防など)、アライメント補正の義肢装具療法に関する研究、アライメント補正の靴と足底挿板療法に関する研究、足部疾患に関する義肢装具療法	・義肢装具療法 ・アライメントと動作分析 ・スポーツ工学
助 教 滝澤 宏和 takizawa-hirokazu@spu.ac.jp (北棟 126)	リハビリテーション学	脳機能作業療法学特論 リハビリテーション教育学Ⅱ		身体機能作業療法学・行動医学
助教 田中 愛誠 tanaka-aisei@spu.ac.jp (北棟 116)	健康福祉科学	子ども若者支援論		社会学、児童福祉学
助 教 中村 高仁 nakamura-takahito@spu.ac.jp (北棟 122)	リハビリテーション学	臨床リハビリテーション研究法 運動解析学特論 リハビリテーション学特別研究(指導教員)	高齢者、中枢神経疾患患者に対する運動療法効果、転倒予防、視線行動に関する研究	基礎理学療法学・神経系理学療法学

(4) 非常勤講師

職 位 ・ 氏 名	科目区分 (専修)	担当授業科目の名称
非常勤講師 会津 克哉	看護学	小児病態・治療学
非常勤講師 赤岩 靖久	看護学	病態生理学
非常勤講師 朝日 雅也	共通	IPW論(専門職連携実践論)①
非常勤講師 石岡 俊之	リハビリテーション学	脳機能作業療法学特論
非常勤講師 石川 容子	看護学	がん看護学演習Ⅰ
非常勤講師 伊丹 久美	看護学	精神看護援助法
非常勤講師 市川 智里	看護学	がん看護学援助論Ⅱ
非常勤講師 岩田 多加子	看護学	がん看護学援助論Ⅰ
非常勤講師 植田 育也	看護学	小児病態・治療学
非常勤講師 小川 朝生	看護学	がん病態生理学
非常勤講師 角田 美穂	看護学	がん看護学援助論Ⅰ
非常勤講師 香春 知永	看護学	看護理論
非常勤講師 川嶋 寛	看護学	小児病態・治療学
非常勤講師 儀賀 理暁	看護学	がん病態生理学
非常勤講師 木原 円子	看護学	がん看護学援助論Ⅲ
非常勤講師 清崎 浩一	看護学	がん病態生理学
非常勤講師 栗原 淳	看護学	小児病態・治療学
非常勤講師 黒澤 亮子	看護学	がん看護学援助論Ⅰ
非常勤講師 賢見 卓也	看護学	がん看護学演習Ⅰ
非常勤講師 康 勝好	看護学	小児病態・治療学
非常勤講師 近藤 美和子	看護学	小児看護援助法Ⅱ
非常勤講師 齊藤 太樹	看護学	がん看護学援助論Ⅲ
非常勤講師 坂上 明子	看護学	リプロダクティブヘルス論
非常勤講師 佐瀬 恵理子	共通	国際保健医療福祉論

職 位 ・ 氏 名	科目区分 (専修)	担当授業科目の名称
非常勤講師 佐野 元彦	看護学	臨床薬理学 がん看護学援助論Ⅱ がん看護学演習Ⅱ
非常勤講師 柴田 貴美子	リハビリテーション学	IPW論(専門職連携実践論)①
非常勤講師 清水 正樹	看護学	小児病態・治療学
非常勤講師 清水 怜	看護学	がん病態生理学
非常勤講師 神野 哲也	看護学	病態生理学
非常勤講師 菅沼 栄介	看護学	小児病態・治療学
非常勤講師 鈴木 誠	看護学	脳機能作業療法学特論
非常勤講師 鈴木 康美	共通	IPW論(専門職連携実践論)①
非常勤講師 高松 潔	看護学	がん病態生理学
非常勤講師 田口 功	看護学	病態生理学
非常勤講師 竹井 淳子	看護学	がん病態生理学
非常勤講師 竹田 徹朗	看護学	病態生理学
非常勤講師 舘野 博喜	看護学	がん病態生理学
非常勤講師 田中 学	看護学	小児病態・治療学
非常勤講師 玉野 正也	看護学	病態生理学
非常勤講師 田村 恵美	看護学	コンサルテーション論 小児看護援助法Ⅱ
非常勤講師 東樹 京子	看護学	がん看護学演習Ⅱ
非常勤講師 仲里 朝周	看護学	がん病態生理学
非常勤講師 中島 朋子	看護学	がん看護学援助論Ⅲ
非常勤講師 中野 真樹子	看護学	地域精神看護論
非常勤講師 中村 めぐみ	看護学	がん看護学演習Ⅰ
非常勤講師 中谷 直樹	共通	IPW論(専門職連携実践論)②
非常勤講師 中山 祐紀子	看護学	がん看護学演習Ⅱ
非常勤講師 野口 祐子	共通	保健医療福祉概論

職 位 ・ 氏 名	科目区分 (専修)	担当授業科目の名称
非常勤講師 間 勝之	看護学	精神科治療論Ⅰ
非常勤講師 橋本 貢士	看護学	病態生理学
非常勤講師 橋本 弥一郎	看護学	がん病態生理学
非常勤講師 浜野 晋一郎	看護学	小児病態・治療学
非常勤講師 伴 慎一	看護学	病態生理学
非常勤講師 樋口 敬和	看護学	病態生理学
非常勤講師 福島 康次	看護学	病態生理学
非常勤講師 福地 麻貴子	看護学	小児看護援助法Ⅱ
非常勤講師 藤永 周一郎	看護学	小児病態・治療学
非常勤講師 舟橋 敬一	看護学	小児病態・治療学
非常勤講師 藤原 紀子	看護学	がん看護学演習Ⅱ
非常勤講師 星野 健司	看護学	小児病態・治療学
非常勤講師 増田 一世	看護学	精神看護制度論
非常勤講師 松元 智恵子	看護学	病態生理学 コンサルテーション論
非常勤講師 丸倉 直美	看護学	コンサルテーション論
非常勤講師 宮川 瑞代	看護学	がん看護学演習Ⅱ
非常勤講師 森川 すいめい	看護学	精神科治療論
非常勤講師 矢内 里英	看護学	精神看護学演習
非常勤講師 和住 淑子	看護学	看護理論
非常勤講師 渡邊 直美	看護学	がん看護学援助論Ⅰ

◎2025年度 大学院学年暦【前期】

月	3/31	4/7	4/14	4/21	4/28	5/5	5/12	5/19	5/26	6/2	6/9	6/16	6/23	6/30	7/7	7/14	7/21	7/28	8/4	
学部 (1～5時限)	春季休業	ガイダンス	①	②	③	休日 こどもの日	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	
1時限		休講日																		
2時限																				
3時限																				
4時限			①	②	③		④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨ /①	⑩ /②	⑪ /③	⑫ /④	⑬ /⑤	⑭ /⑥	⑮ /⑦	⑯ /⑧	
5時限																				
6時限																				
7時限																				
火 学部 (1～5時限)	4/1		4/8	4/15	4/22	4/29	5/6	5/13	5/20	5/27	6/3	6/10	6/17	6/24	7/1	7/8	7/15	7/22	7/29	8/5
1時限	春季休業	①	②	③	休日 昭和の日	振替休日	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	
2時限																				
3時限																				
4時限		①	②	③			④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨ /①	⑩ /②	⑪ /③	⑫ /④	⑬ /⑤	⑭ /⑥	⑮ /⑦	⑯ /⑧	
5時限																				
6時限																				
7時限																				
水 学部 (1～5時限)		4/2	4/9	4/16			4/23	4/30	5/7	5/14	5/21	5/28	6/4	6/11	6/18	6/25	7/2	7/9	7/16	7/23
1時限	入学式／ガイダンス 等	①	②	③	(休日振替 5/28開学記念の日) 休日	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	夏季休業	
2時限																				
3時限						④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨ /①	⑩ /②	⑪ /③	⑫ /④	⑬ /⑤	⑭ /⑥	⑮ /⑦	⑯ /⑧		
4時限		①	②	③																
5時限																				
6時限																				
7時限																				
木 学部 (1～5時限)		4/3	4/10	4/17		4/24	5/1	5/8	5/15	5/22	5/29	6/5	6/12	6/19	6/26	7/3	7/10	7/17		7/24
1時限	ガイダンス	①	②	③	(休日振替 7/21海の日) 休日	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	夏季休業	
2時限	休講日																			
3時限						④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨ /①	⑩ /②	⑪ /③	⑫ /④	⑬ /⑤	⑭ /⑥	⑮ /⑦	⑯ /⑧		
4時限		①	②	③																
5時限																				
6時限																				
7時限																				
金 学部 (1～5時限)		4/4	4/11	4/18		4/25	5/2	5/9	5/16	5/23	5/30	6/6	6/13	6/20	6/27	7/4	7/11	7/18		7/25
1時限		ガイダンス	①	②	③	(休日振替 8/1山の日) 休日	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	夏季休業
2時限	休講日																			
3時限					④		⑤	⑥	⑦	⑧	⑨ /①	⑩ /②	⑪ /③	⑫ /④	⑬ /⑤	⑭ /⑥	⑮ /⑦	⑯ /⑧		
4時限		①	②	③																
5時限																				
6時限																				
7時限																				
土 学部 授業なし		4/5	4/12	4/19	4/26		5/3	5/10	5/17	5/24	5/31	6/7	6/14	6/21	6/28	7/5	7/12	7/19	7/26	
1時限		①	特別研究 発表会			休日 憲法記念日														夏季休業
2時限	②			③	④		⑤	⑥	⑦	⑧	⑨ /①	⑩ /②	⑪ /③	⑫ /④	⑬ /⑤	⑭ /⑥	⑮ /⑦	⑯ /⑧		
3時限																				
4時限																				
5時限																				

●黒丸数字は後半から開始する授業

○ 行事予定

春季休業	～4月1日(火)
入学式	4月2日(水)
ガイダンス等	4月2日(水)※3日(木)は予備日
授業開始	4月5日(土)
特別研究発表会	4月12日(土)
補講	随時
前期試験	原則16週目に実施
夏季休業	8月6日(水)～10月2日(木) (開学期間 8月13日(水)～19日(火))

【休日開講日】		【休日振替日】	
5月28日(水)開学記念日	→	4月30日(水)	
7月21日(月)海の日	→	5月1日(木)	
8月11日(月)山の日	→	5月2日(金)	
授業時間表	1時限	9:00～10:30	6時限 18:00～19:30
	2時限	10:40～12:10	7時限 19:40～21:10
	3時限	13:00～14:30	
	4時限	14:40～16:10	博士前期課程:平日6・7限、土曜1～5限
	5時限	16:20～17:50	博士後期課程:平日1～7限、土曜1～5限

◎2025年度 大学院学年暦【後期】

月	9/15	9/22	9/29	10/6	10/13	10/20	10/27	11/3	11/10	11/17	11/24	12/1	12/8	12/15	12/22	12/29	1/5	1/12	1/19	1/26	2/2							
学部 (1～5時限)	夏季休業	ヒューマンク ア体験	IPW実習	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	冬季休業	13 /5	休日 成人の日	⑭	⑮	⑯							
1時限		夏季休業	夏季休業	夏季休業	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨ /①	⑩ /②	⑪ /③				⑫ /④	⑭ /⑥	⑮ /⑦	⑯ /⑧						
2時限																												
3時限																												
4時限																												
5時限																												
6時限																												
7時限																												
火	9/16															9/23	9/30	10/7					10/14	10/21	10/28	11/4	11/11	11/18
学部 (1～5時限)	夏季休業	ヒューマンク ア体験	IPW実習	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	(休日振替 10/11スポートの日)	冬季休業	12 /4	⑬ /⑤	⑭	⑮	⑯							
1時限		夏季休業	夏季休業	夏季休業	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨ /①	⑩ /②								⑪ /③	⑫ /④	⑬ /⑤	⑭ /⑥	⑮ /⑦	⑯ /⑧	
2時限																												
3時限																												
4時限																												
5時限																												
6時限																												
7時限																												
水	9/17														9/24	10/1	10/8	10/15	10/22	10/29	11/5							11/12
学部 (1～5時限)	夏季休業	ヒューマンク ア体験	IPW実習	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	(休日振替 11/3文化の日)	冬季休業	12 /4	⑬ /⑤	⑭ /⑥	⑮ /⑦	⑯ /⑧							
1時限		夏季休業	夏季休業	夏季休業	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨ /①	⑩ /②								⑪ /③	⑫ /④	⑬ /⑤	⑭ /⑥	⑮ /⑦	⑯ /⑧	
2時限																												
3時限																												
4時限																												
5時限																												
6時限																												
7時限																												
木	9/18														9/25	10/2	10/9	10/16	10/23	10/30	11/6							11/13
学部 (1～5時限)	夏季休業	ヒューマンク ア体験	IPW実習	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	(休日振替 建國記念の日2/11)	冬季休業	12 /4	⑬ /⑤	⑭ /⑥	⑮ /⑦	⑯ /⑧							
1時限		夏季休業	夏季休業	夏季休業	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨ /①	⑩ /②								⑪ /③	⑫ /④	⑬ /⑤	⑭ /⑥	⑮ /⑦	⑯ /⑧	
2時限																												
3時限																												
4時限																												
5時限																												
6時限																												
7時限																												
金	9/19														9/26	10/3	10/10	10/17	10/24	10/31	11/7							11/14
学部 (1～5時限)	夏季休業	ヒューマンク ア体験	ヒューマンク ア体験	①	②	③	大学祭準備日 休講日	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	冬季休業	冬季休業	12 /4	⑬ /⑤	⑭ /⑥	⑮ /⑦	⑯ /⑧	⑰					
1時限		夏季休業	夏季休業	①	②	③		④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨ /①	⑩ /②	⑪ /③									⑫ /④	⑬ /⑤	⑭ /⑥	⑮ /⑦	⑯ /⑧
2時限																												
3時限																												
4時限																												
5時限																												
6時限																												
7時限																												
土	9/20						9/27									10/4	10/11	10/18	10/25	11/1	11/8	11/15	11/22					
学部 授業なし	夏季休業	夏季休業	①	特別研究 発表会	②	大学祭 休講日	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨ /①	⑩ /②	冬季休業	⑪ /③	大学入学共通テスト (終日立入禁止)	休講日 大学入学共通テスト	⑫ /④	⑬ /⑤	⑭ /⑥	⑮ /⑦	⑯ /⑧					
1時限																												
2時限																												
3時限																												
4時限																												
5時限																												

●黒丸数字は後半から開始する授業

※1 入試準備のため、教室が変更になる場合があります。変更後の教室については別途ご案内します。

○ 行事予定

授業開始	10月3日(金)
特別研究発表会	10月11日(土)
大学祭	10月25日(土)・26日(日) ※ 準備 10月24日(金)
冬季休業	12月23日(火)～1月4日(日)
補講日	随時
後期試験	原則16週目に実施
修士論文審査期間	2月9日(月)～2月19日(木)
博士論文審査期間	【一次審査会】10月9日(木)～10月22日(水) 【二次審査会】1月12日(火)～1月23日(金)
春季休業	2月15日(日)～
卒業式	3月13日(金)

入試予定日(学内立入禁止)			
※日程未確定のため、確定次第記載			
電気設備点検(学内立入禁止)			
9月14日(土)			
【休日開講日】		【休日振替日】	
10月13日(月)スポーツの日		→ 12月23日(火)	
11月3日(月)文化の日		→ 12月24日(水)	
2月11日(水)建国記念の日		→ 12月25日(木)	
授業 時間 表	1時限	9:00～10:30	6時限 18:00～19:30
	2時限	10:40～12:10	7時限 19:40～21:10
	3時限	13:00～14:30	
	4時限	14:40～16:10	博士前期課程:平日6・7限、土曜1～5限
	5時限	16:20～17:50	博士後期課程:平日1～7限、土曜1～5限

2025年度 埼玉県立大学大学院 博士前期課程 時間割 (前期)
(2025年4月1日以降入学者用)

本校(せんげん台)

	月曜日		火曜日		水曜日		木曜日		金曜日		土曜日	
	前年:4月～6月上旬 後年:4月1日～6月上旬	6時限	7時限	8時限	前年:4月～6月上旬 後年:4月1日～6月上旬	6時限	7時限	8時限	前年:4月～6月上旬 後年:4月1日～6月上旬	6時限	7時限	8時限
教員棟 107	18:30～19:30	19:40～21:10	18:30～19:30	19:40～21:10	18:30～19:30	19:40～21:10	18:30～19:30	19:40～21:10	18:30～19:30	19:40～21:10	9:00～10:30	10:40～12:10 13:30～14:30 14:40～16:10 17:20
講義												
演習												
北棟202												
講義												
演習												
北棟203-204												
講義												
演習												
北棟205												
講義												
演習												
北棟206												
講義												
演習												
北棟210												
講義												
演習												
その他												
講義												
演習												
その他												
講義												
演習												

サテライトキャンパス(新都心)

講義												
演習												
その他												
講義												
演習												

【看護士理学(成田)】は集中で行う。
【小児発達看護学(久保)】は集中で行う。
【看護士理学(成田)】は集中で行う。
【看護士理学(成田)】は集中で行う。

※時間割、教室は変更となる場合がありますので、ご注意ください。

※サテライトキャンパスで開講される科目以外でも、遠隔で授業実施される全ての科目をサテライトキャンパスで受講可能です。なお、サテライトキャンパスへの入籍にはカードキーの申請が必要ですので、事務局に御相談ください。

2025年度 埼玉県立大学大学院 博士前期課程 時間割 (後期)

[illegible]

サテライトキャンパス(新都心)

[illegible]

※時間割,教室は変更となる場合がありますので,ご注意ください。

※サテライトキャンパスで開講される科目以外でも、遠隔で授業実施される全ての科目をサテライトキャンパスで受講可能です。なお、サテライトキャンパスへの入構にはカードキーの申請が必要ですので、事務局に御相談ください。